

新型コロナウイルス感染症の 県内発生について

その19

～第七波の状況(1)～

和歌山県福祉保健部技監 野尻 孝子

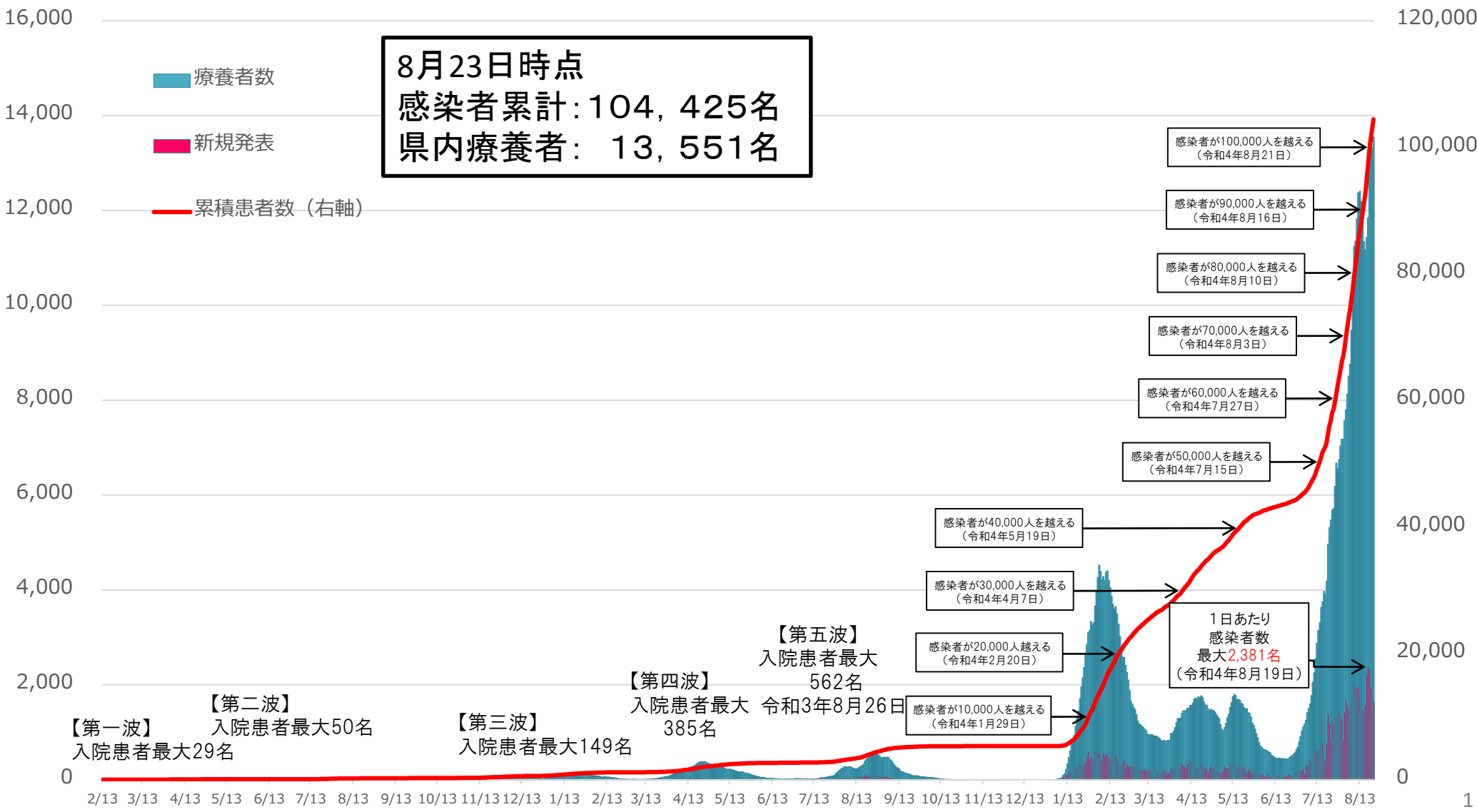
2022年8月25日



感染状況

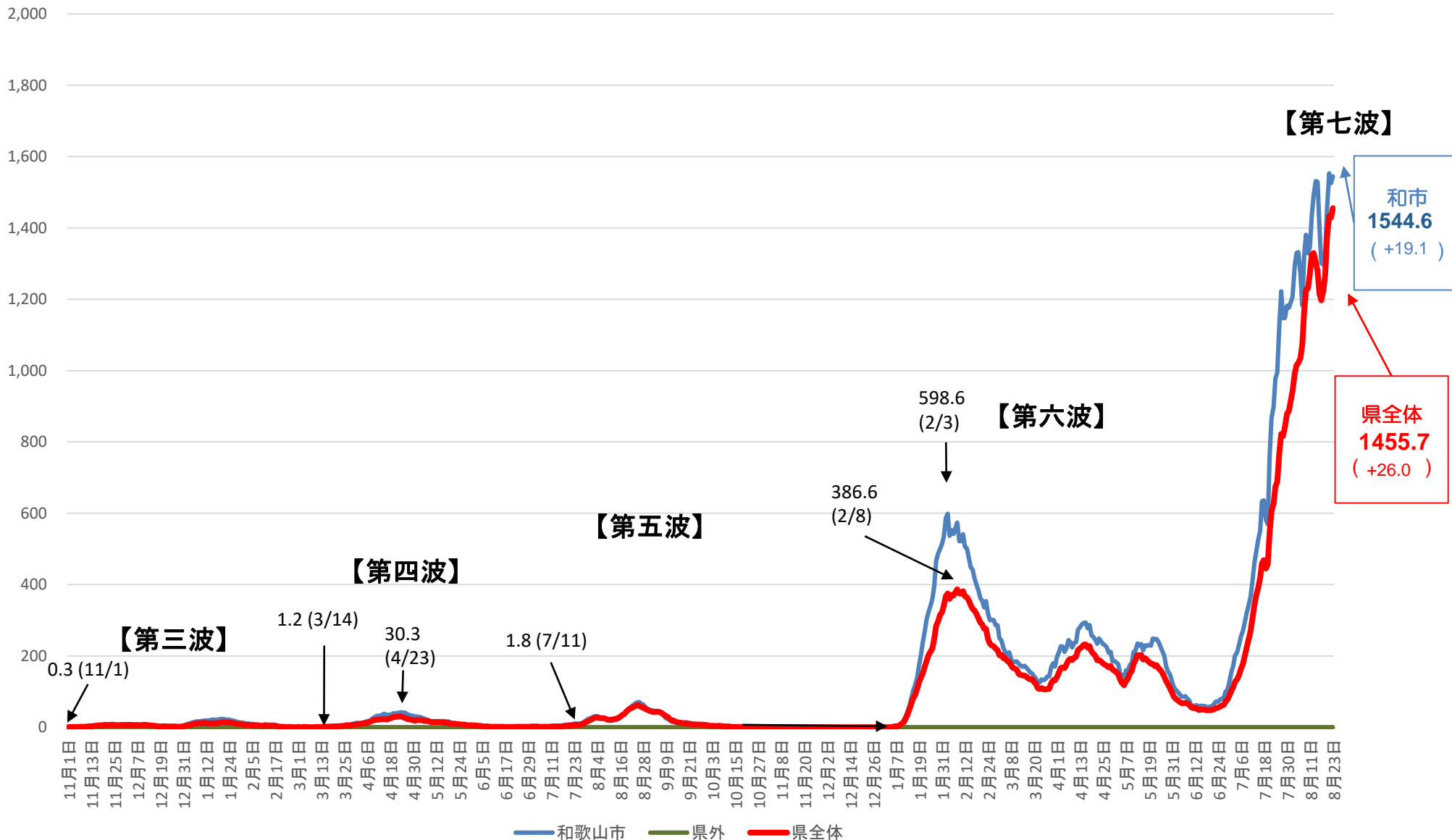
和歌山県内の新型コロナウイルス感染症 感染動向の推移 令和4年8月23日 発表分まで

- 第一波
- 第二波
- 第三波
- 第四波
- 第五波
- 第六波
- 第七波



県内の感染者数の推移 (1週間・人口10万人あたり)

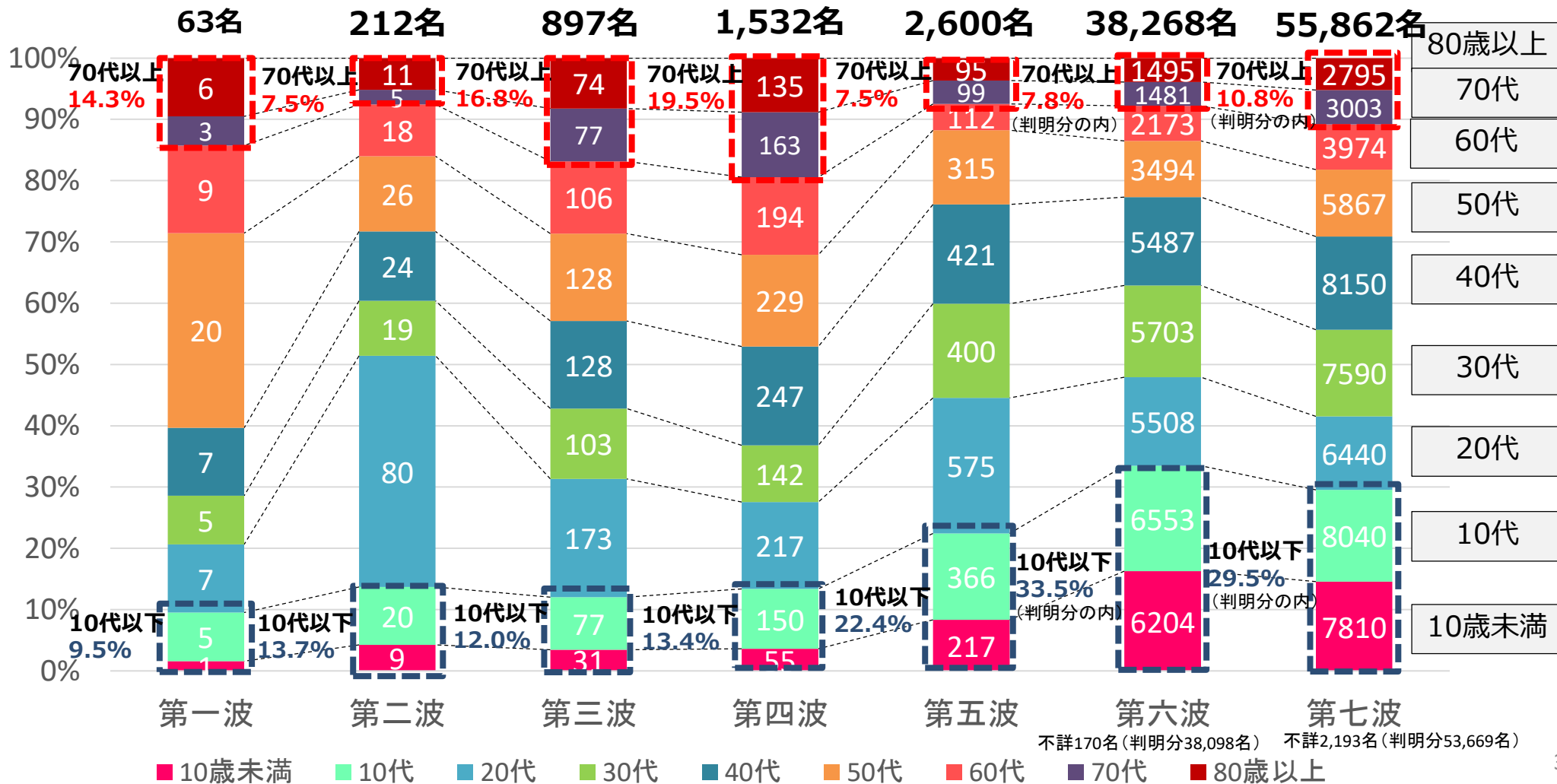
8/23
時点
(公表日ベース)



県内の年齢別感染者数

(令和4年8月20日発表分まで)
99,434名

- 第一波では感染者の年代は50・60代が中心であったが、第二波では、20代以下の若者が中心となった。
- 第三波では、全年齢に感染が広がったが、特に高齢者と小児の患者数が増加している。
- 第四波においても、各年代に感染が広がるとともに、高齢者の割合が高くなっている。
- 第五波においては、20代が最も多く、高齢者は少ない。10代以下の若年者・小児が増加した。
- 第六波においては、10代以下の若者・小児が急増するとともに高齢者が増加した。
- 第七波においては、第六波と同様に、10代以下の若者・小児が急増するとともに30代以上と高齢者が増加した。

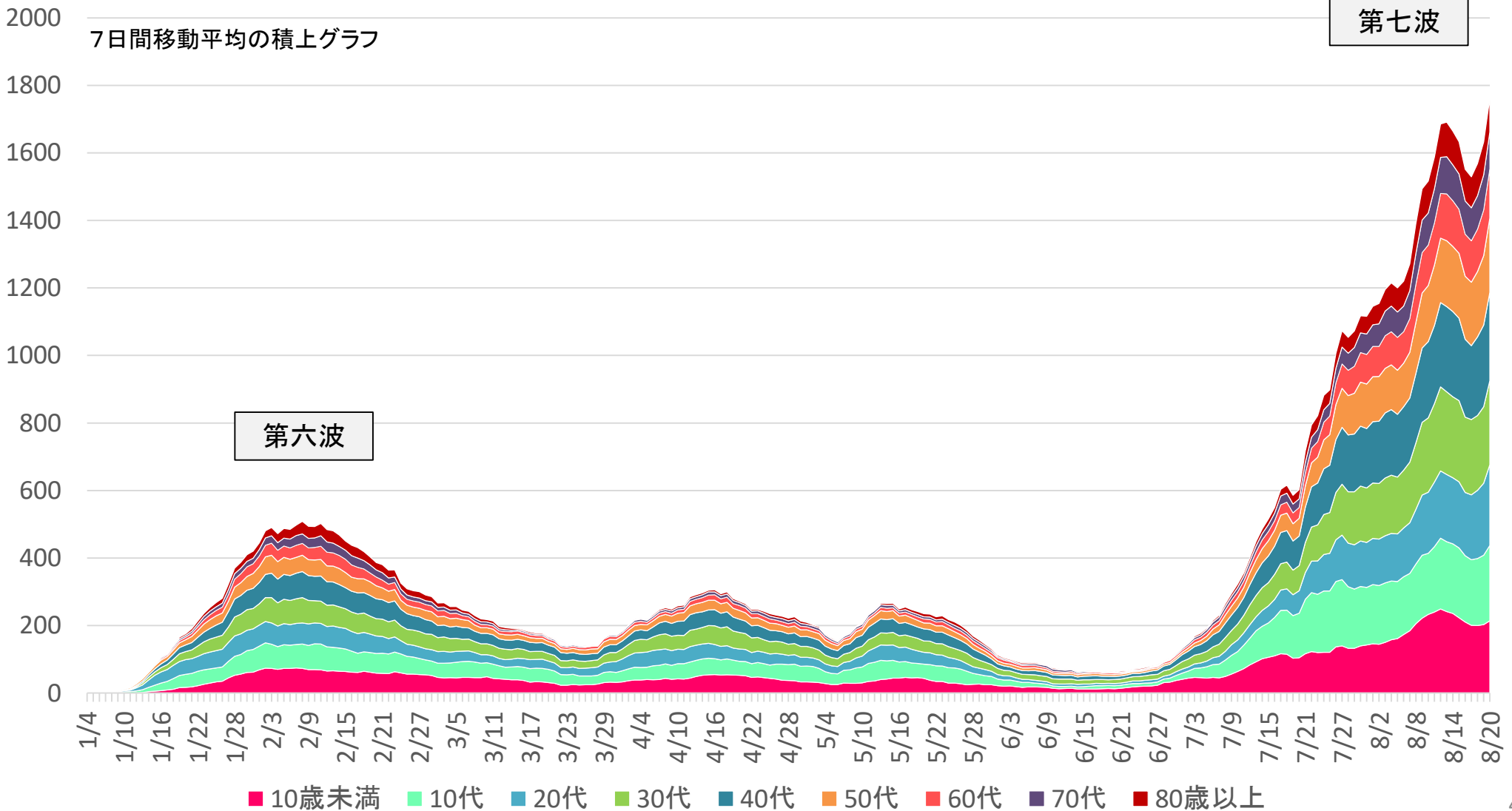


県内の第六波以降の年齢別感染者数

(8月20日発表分まで)
第六波～ 94,130名

図は年代等不明分を除く

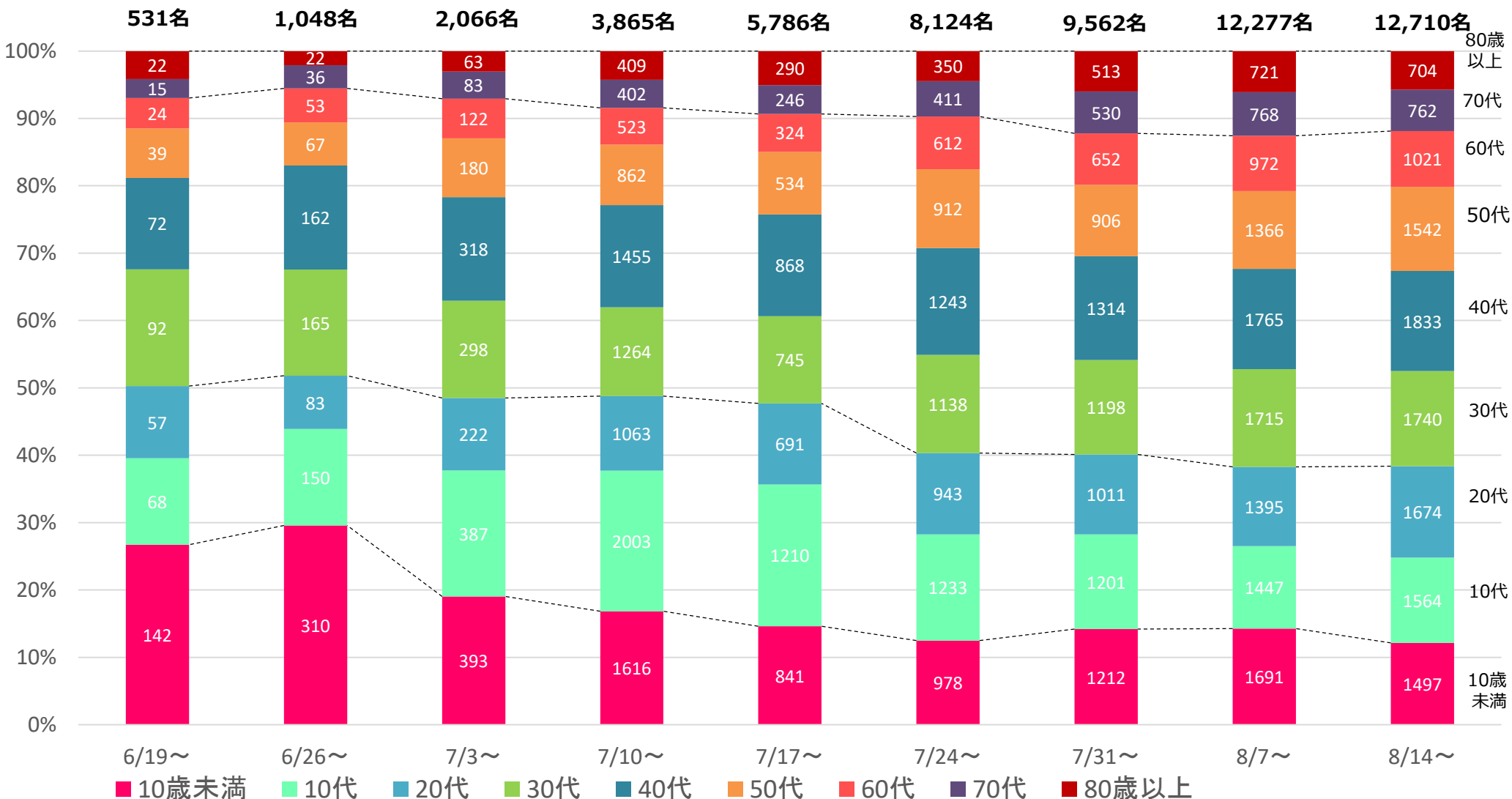
- 感染の波を経るにつれて10代の若者や10歳未満の小児の感染者は増加した。
- 第七波では、第六波以上に感染者の総数が急増するとともに、ワクチン未接種が多い10代以下の若者・小児が急増した。



県内の第七波の週別年齢別感染者数

(8月20日発表分まで)
第七波～ 55,862名

- 第七波では、30代以上の年代の感染者の割合が増えている。
- 第七波の当初は10代以下の若者・小児の感染が多かったが、次第に高齢者の感染者が増加した。これは、高齢者施設関係や病院のクラスターが増えたことによるとと思われる。8月14日の週は高齢者と10歳未満が前週よりやや減少した。



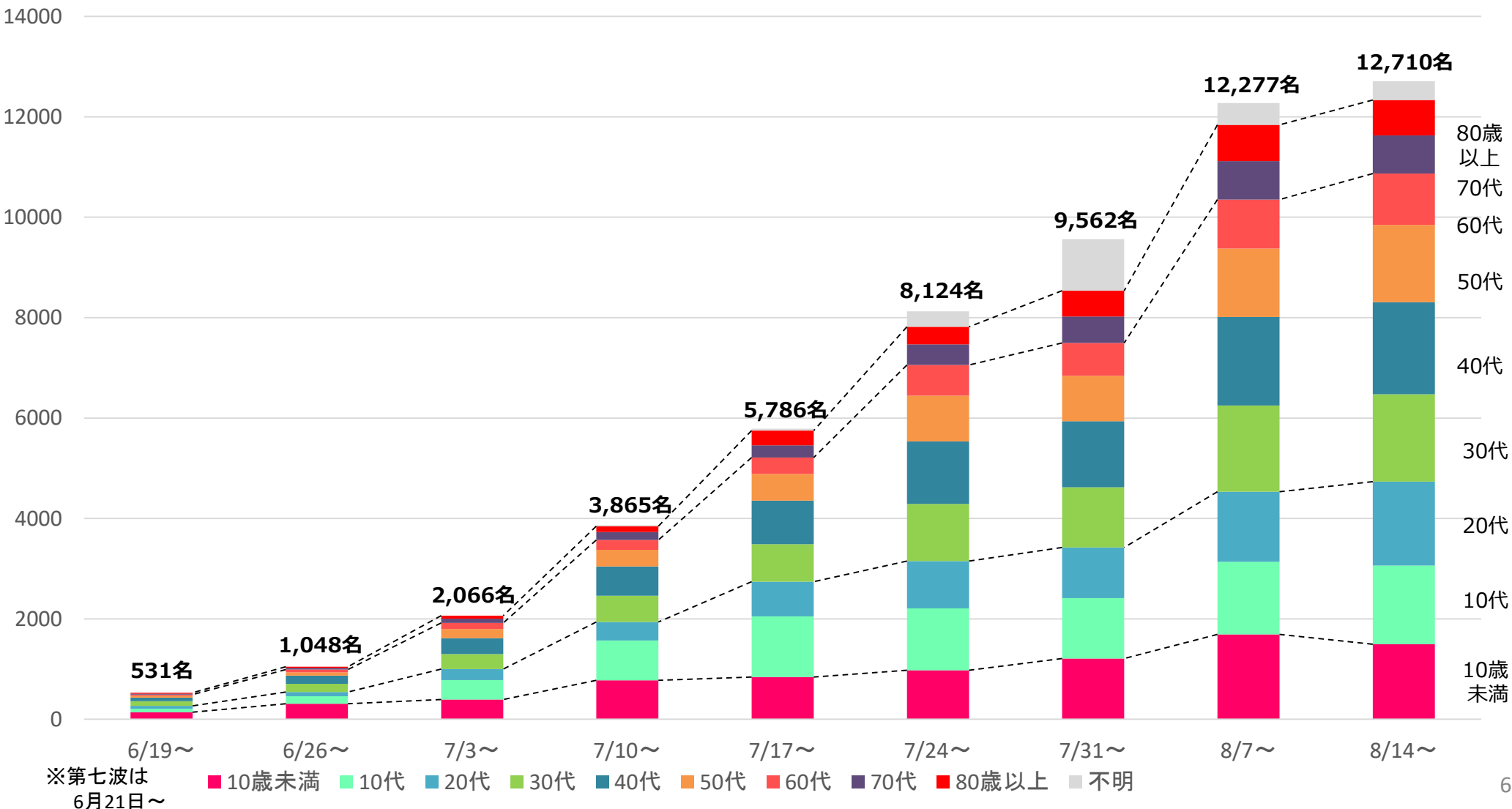
※第七波は6月21日～

※グラフは年代不詳分を除いているため、各年代の合計値と各週の数(上部の数)が一致しない場合がある。

県内の第七波の週別年齢別感染者数

(8月20日発表分まで)
第七波～ 55,862名

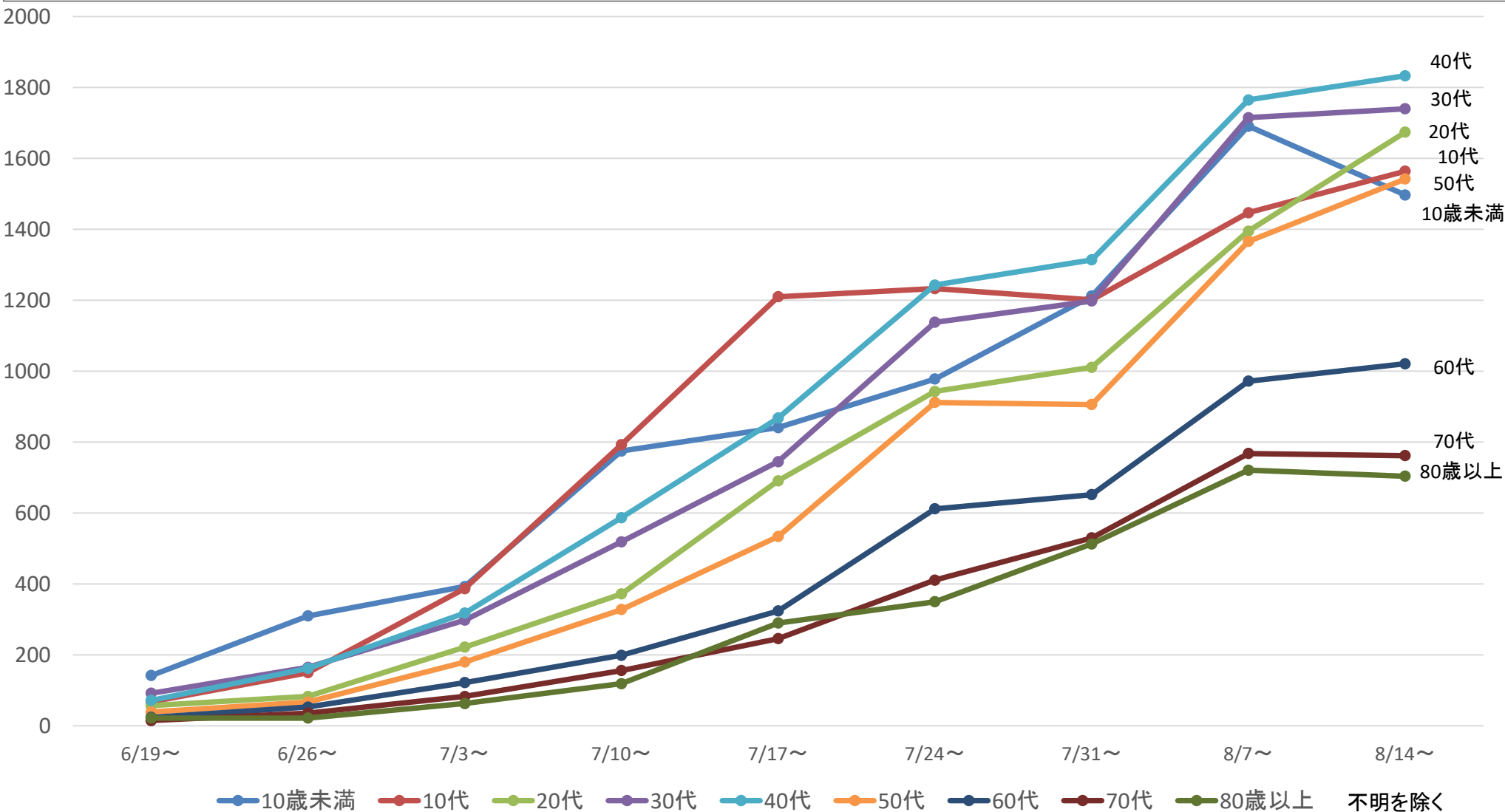
- 8月7日の周には感染者が急増し、特に30代以上と小児の感染が増えた。
- 第七波では、週数を経るに従い、高齢者施設関係や病院のクラスターが多発し、高齢者が増加した。8月14日の週は、高齢者と10歳未満が前週よりやや減少した。



県内の第七波以降の週別年齢別感染者数

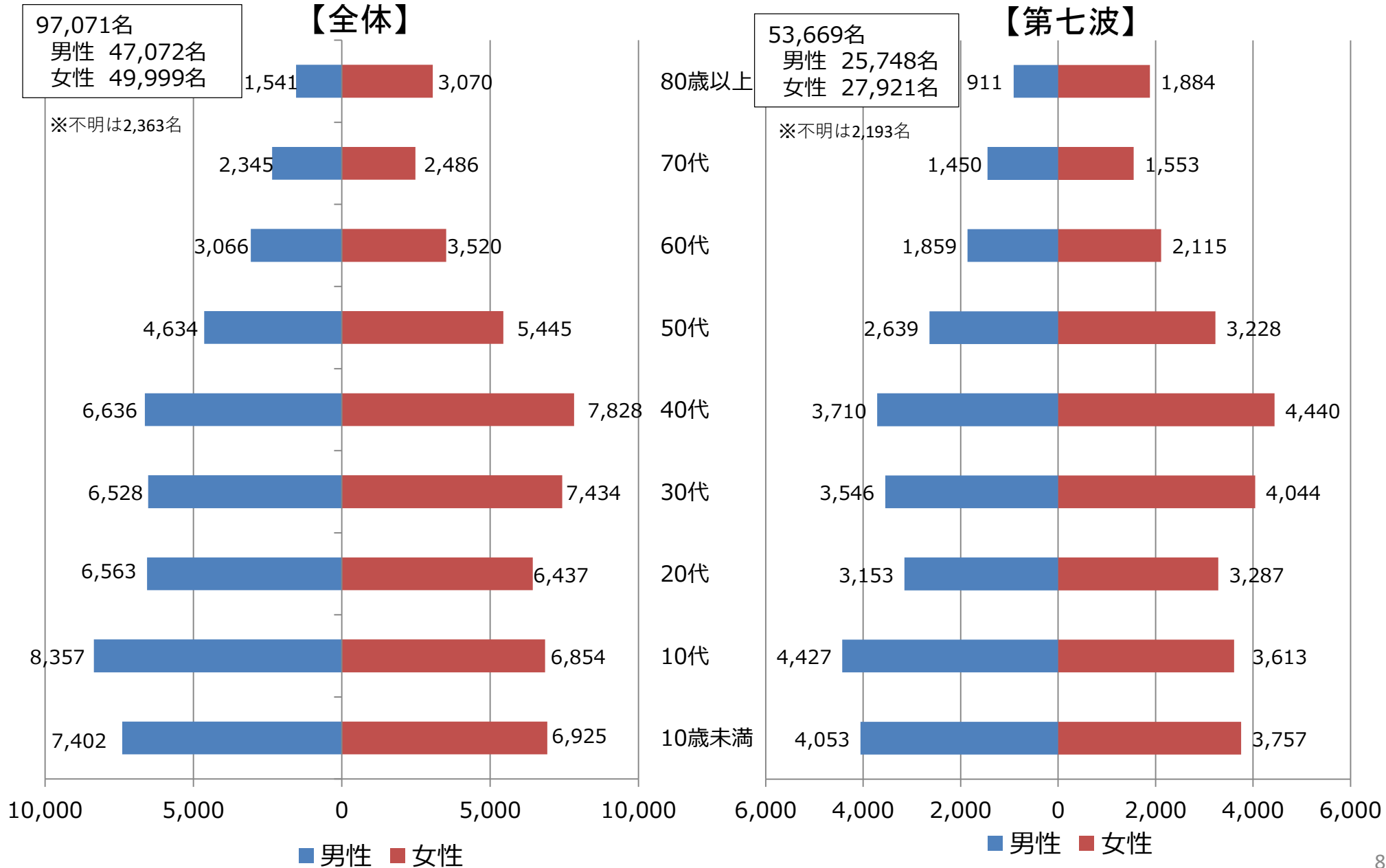
(8月20日発表分まで)
第七波～ 55,862名

- 第七波の感染の拡大は、当初、10歳未満が最も多かったが、7月の第三週くらいから運動クラブに所属する10代の感染者がさらに増加した。7月末から30代、40代が増加した。10代の家族内感染や職場内感染の増加によると考えられる。
- ワクチン3回接種率の高い高齢者の感染者は少なかったが、週数を経るにつれて増加していったが、8月14日の週では、70代以上がやや減少したとともに、10歳未満が減少した。お盆の検査数の減少が影響している可能性もあり、今後の動向を注視していく。



新規陽性者の年代・性別構成

令和4年8月20日時点
(年代・性別不詳者を除く)



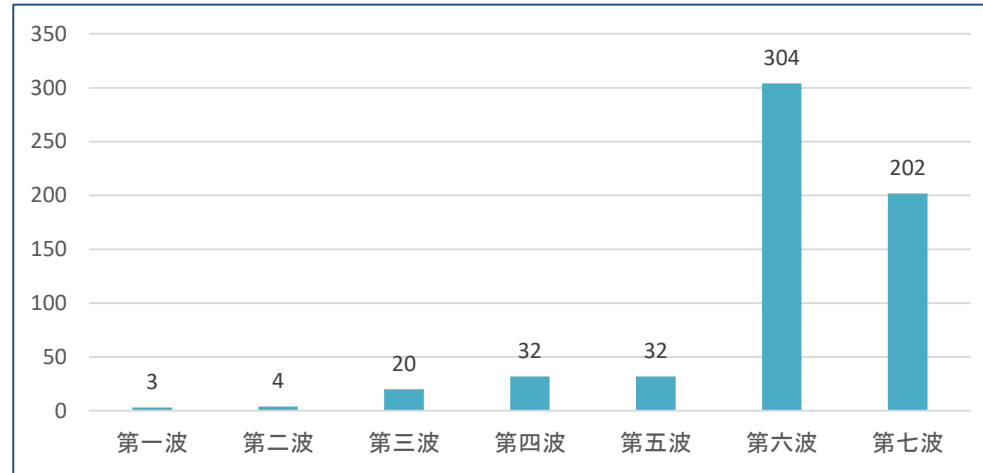
クラスター

クラスター発生数

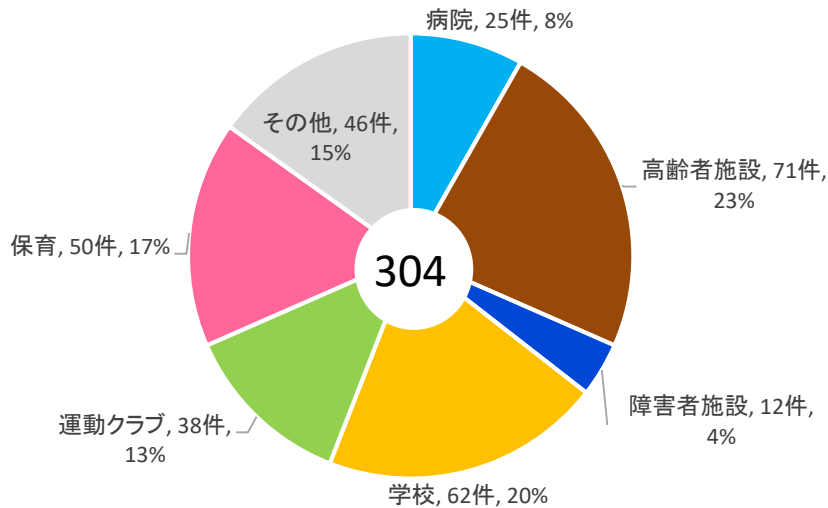
令和4年8月19日時点

- 現時点において、第七波は、第六波と比較してクラスター数は少ないものの、わずか2か月で200件以上と発生スピードは速い。
- 第七波では、病院のクラスターと障害者施設のクラスター数が多い。また、高齢者施設の発生割合が高い。一方、保育でのクラスターは減少した。

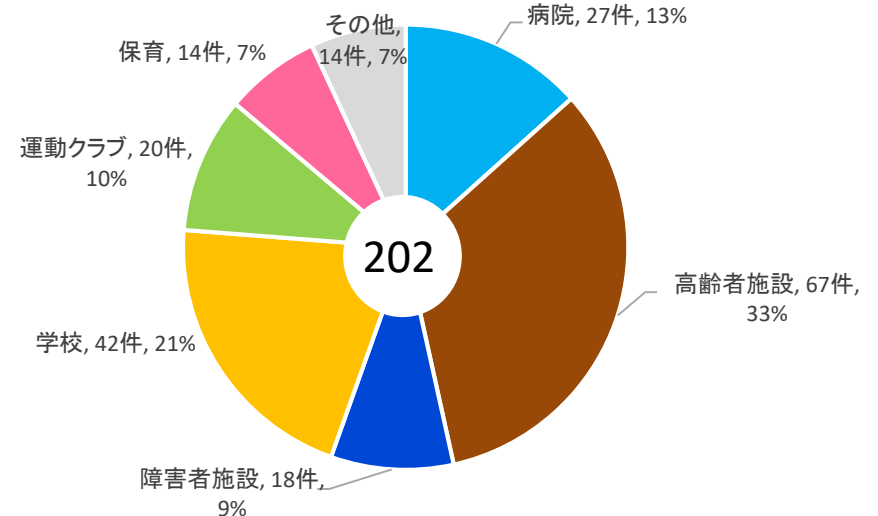
【波別のクラスター数】



【第六波の施設別クラスター】



【第七波の施設別クラスター】

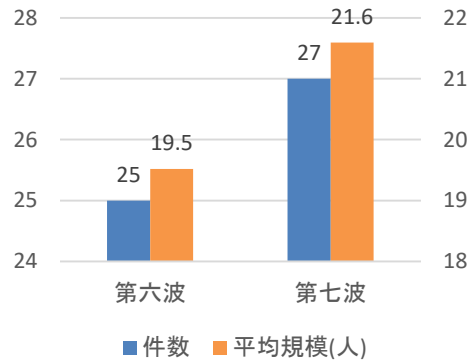


クラスター発生数

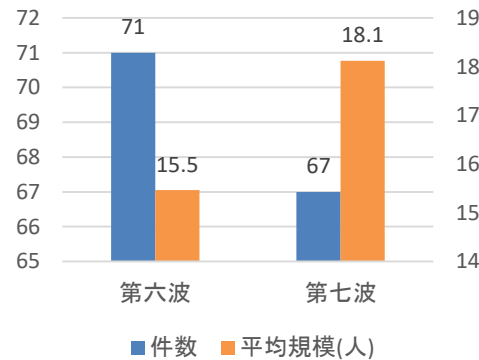
令和4年8月19日時点

- 各施設のクラスターについて、第六波と第七波の現時点について、発生数と平均規模について比較した。
- 第七波では、第六波と比較して、病院、障害者施設で発生数が多くなっている。また、病院、高齢者施設、学校、運動・クラブ保育所では、平均規模（一施設当たりの感染者数）は、第七波の方が第六波より多くなっている。

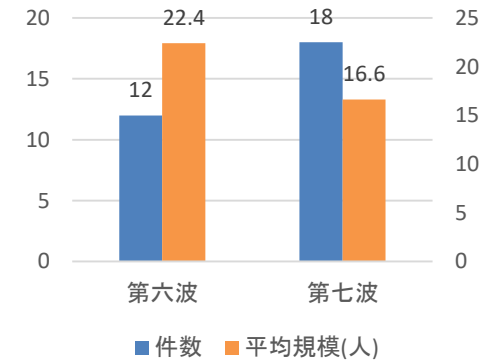
病院



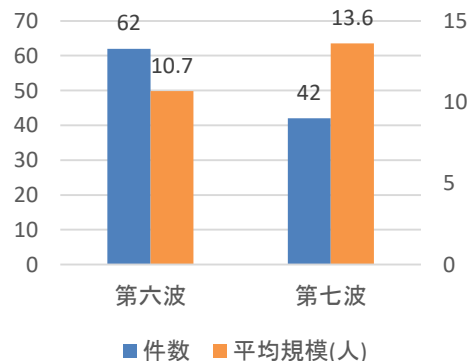
高齢者施設



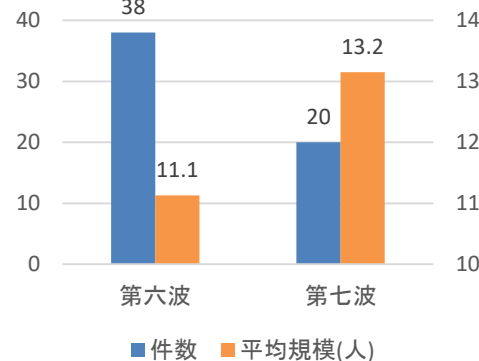
障害者施設



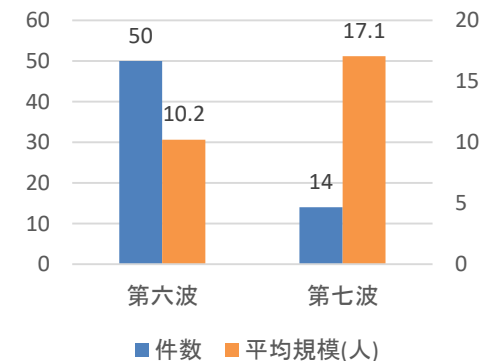
学校



運動・クラブ



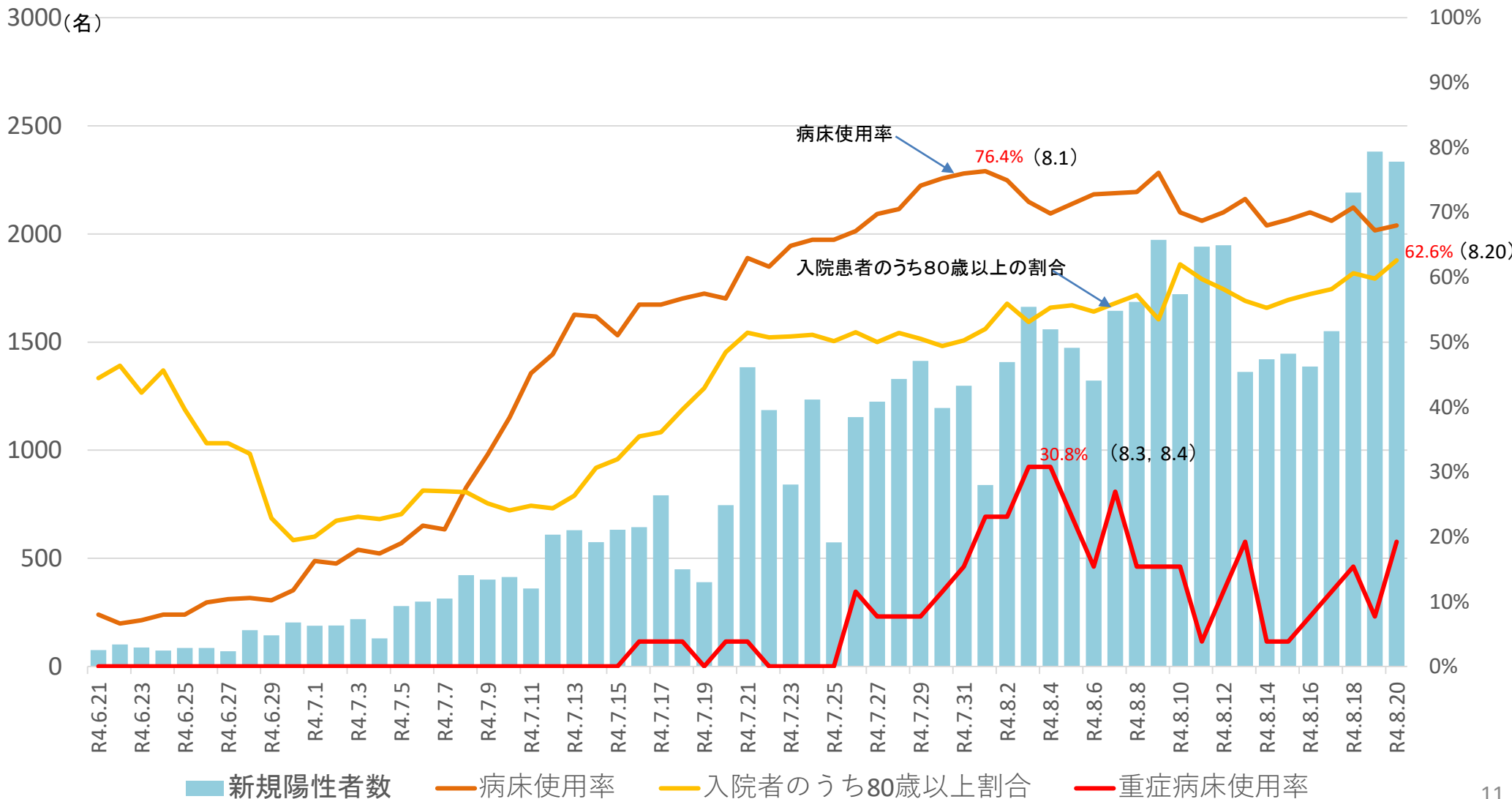
保育



入院・病床

和歌山県の新規陽性者数と病床使用率の推移（第七波以降）

- 第七波の感染の拡大が進むにつれて、病床使用率は高くなり、80歳以上の高齢者の入院者が増加し、医療のひっ迫が続いている。
- 国基準の重症者は、新規感染者の増加より遅れて増加した。

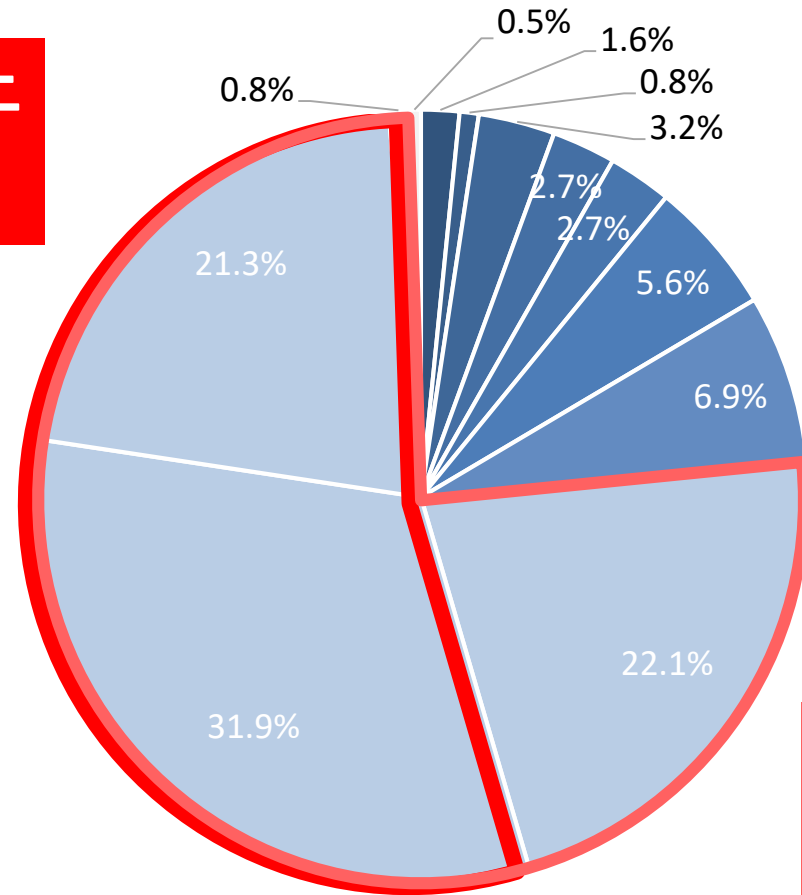


第七波の入院患者の年代構成

【8月上旬のある日】

年代	割合
10歳未満	1.6%
10代	0.8%
20代	3.2%
30代	2.7%
40代	2.7%
50代	5.6%
60代	6.9%
70代	22.1%
80代	31.9%
90代	21.3%
100代	0.8%
不明	0.5%
合計	100.00%

80代以上
54.0%



70代以上
76.1%

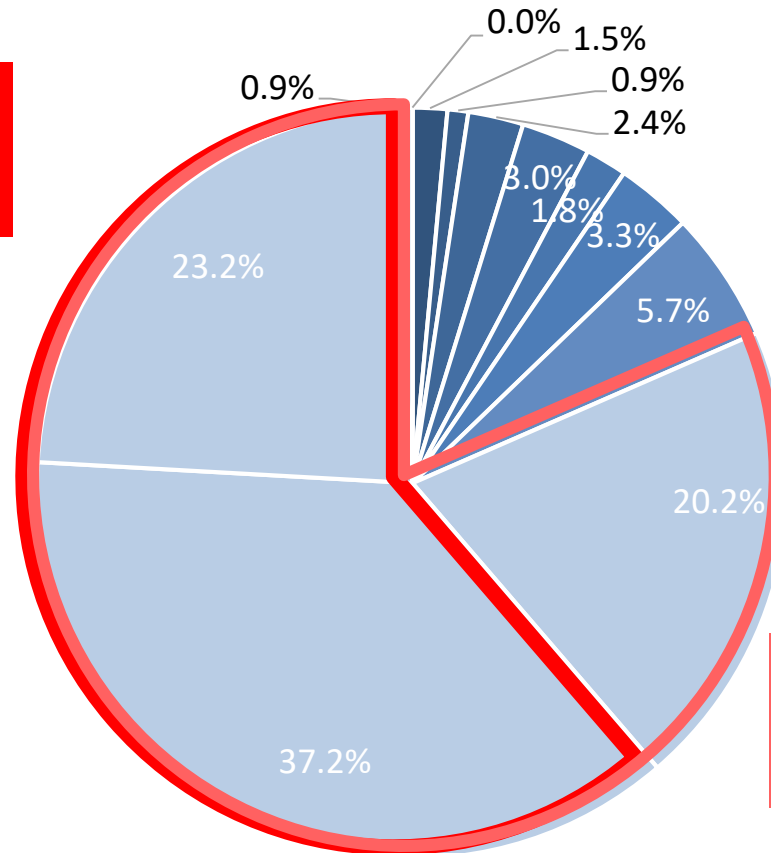
- 10歳未満
- 10代
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70代
- 80代
- 90代
- 100代
- 不明

第七波の入院患者の年代構成

【8月下旬のある日】

年代	割合
10歳未満	1.5%
10代	0.9%
20代	2.4%
30代	3.0%
40代	1.8%
50代	3.3%
60代	5.7%
70代	20.2%
80代	37.2%
90代	23.2%
100代	0.9%
不明	0.0%
合計	100.00%

**80代以上
60.4%**



**70代以上
80.6%**

- 10歳未満 ■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代
- 60代 ■ 70代 ■ 80代 ■ 90代 ■ 100代 ■ 不明

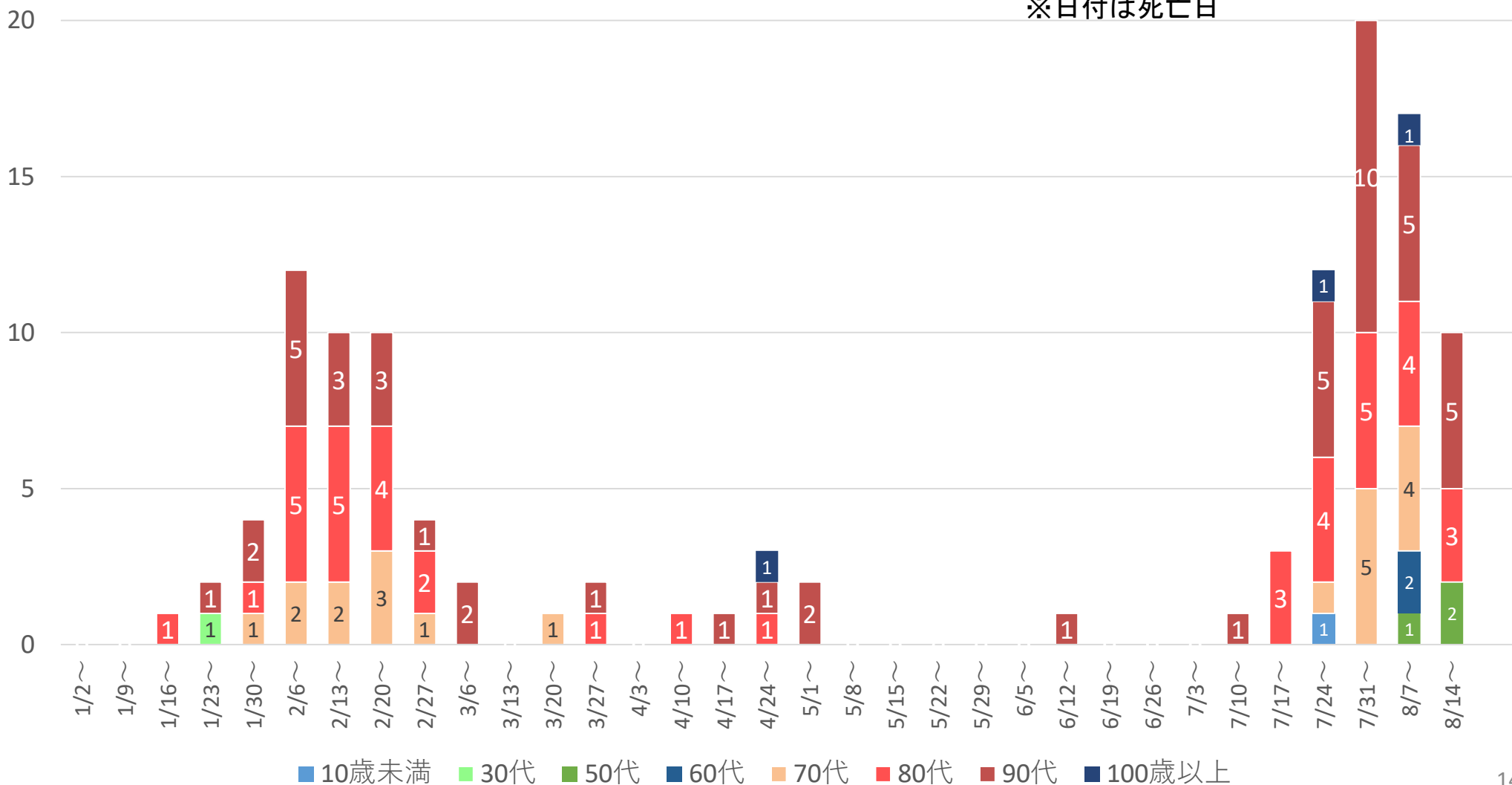
死亡の状況

死亡者の年代構成の週別推移（第六波以降）

令和4年8月19日時点

- 第六波から第七波における死亡者の週別推移をみた。
- 第七波は、感染爆発によって、第六波を上回る死亡者があった。現時点では、7月31日の週が最も多くなっている。また、小児や50代、60代の死亡者もみられるようになった。

※日付は死亡日

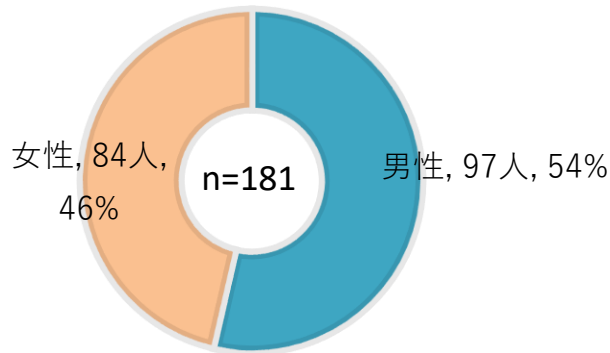


死亡（間接死因含む）の状況

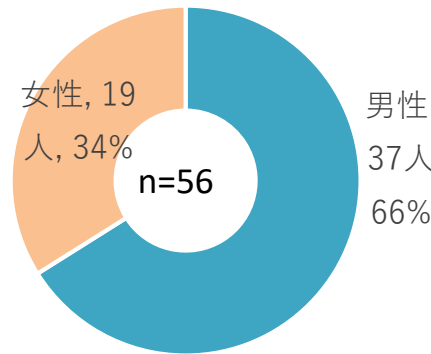
令和4年8月19日時点

- 令和4年8月19日までの死亡者181名のうち男性の方が多く、70代以上の高齢者は約93%である。
- 第三波、第四波では、高齢者の感染者が増加したことにより、死亡者も増加した。第五波では、ワクチン接種による効果と考えられるが、死亡者は減少した。
- 第七波では、女性が多く、90代以上の高齢者が多かった。一方、また、60代以下の死亡が6名あり、初めて10歳未満の小児の死亡例があった。

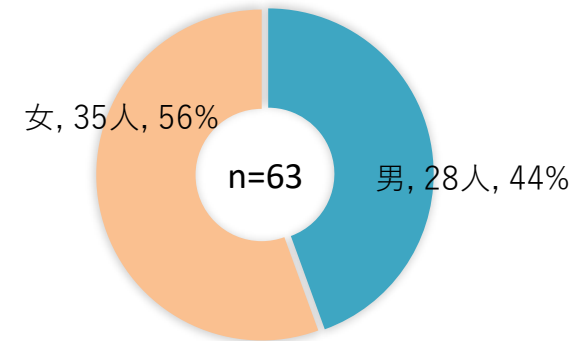
性別（全体）



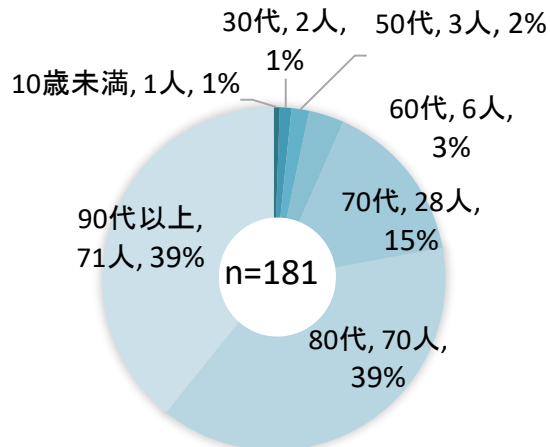
性別（第六波）



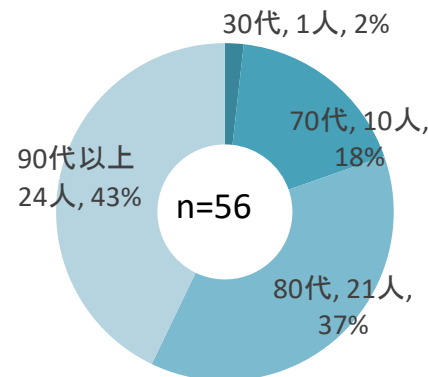
性別（第七波）



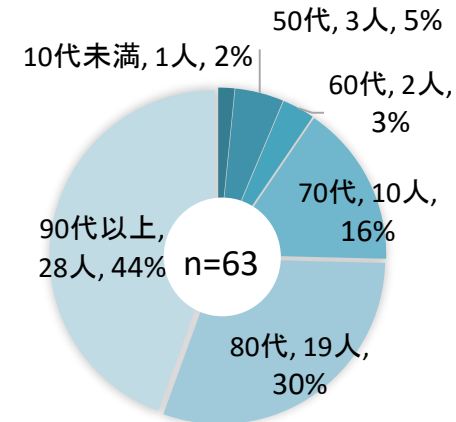
年齢別（全体）



年齢別（第六波）



年齢別（第七波）

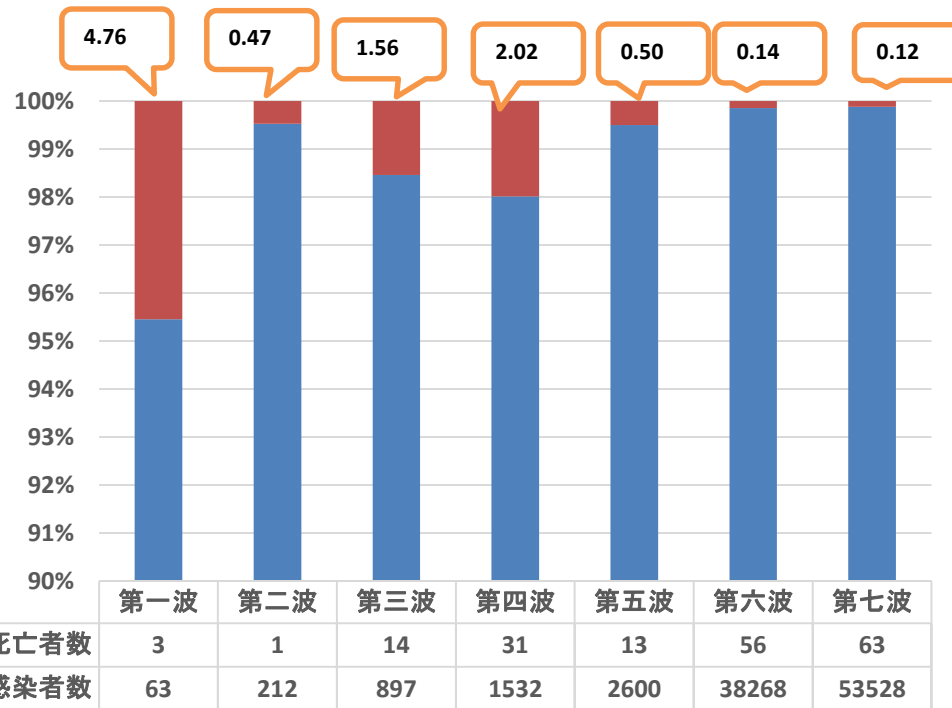


死亡（間接死因含む）の状況

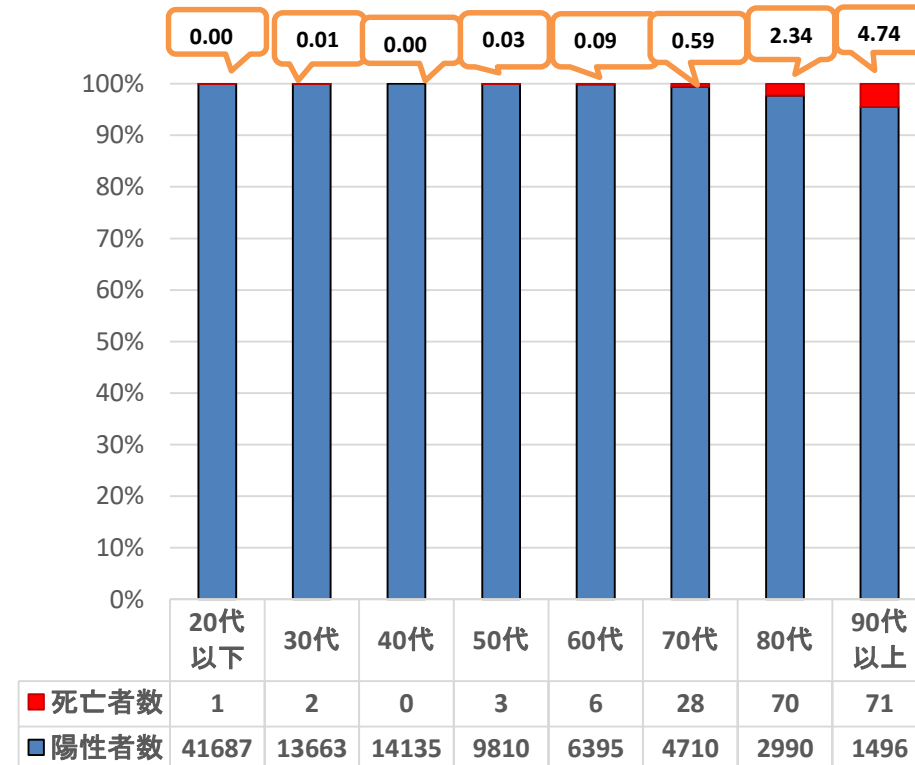
令和4年8月19日時点

- 第三波、第四波では、高齢者の感染者が増加したことにより、死亡者も増加した。第五波では、ワクチン接種による効果と考えられるが、死亡者は減少した。
- 第七波では、女性が多く、90代以上の高齢者が多かった。一方、初めて10歳未満の小児の死亡例があった。爆発的な感染拡大が起こったが、致死率は減少した。
- 年代別致死率は、60代から増えている。特に、80代以上の高齢者は致死率が高かった。

波別の致死率



年代別の致死率



致死率の状況について

- 現時点で、第七波は第六波より60歳未満の致死率は高くなったが、60歳以上では、低くなっている。
- ただし、第七波の現時点で季節性インフルエンザと比較すると、60歳未満ではほぼ同等であるが、60歳以上ではやや高くなっている。

		60歳未満	60歳以上	参考：全年齢
第7波	和歌山県	0.009%	0.63%	0.12%
第6波	和歌山県	0.003%	0.83%	0.14%
	全国	0.01%	1.99%	
デルタ流行期（全国）		0.08%	2.50%	
季節性インフルエンザ（全国）		0.01%	0.55%	

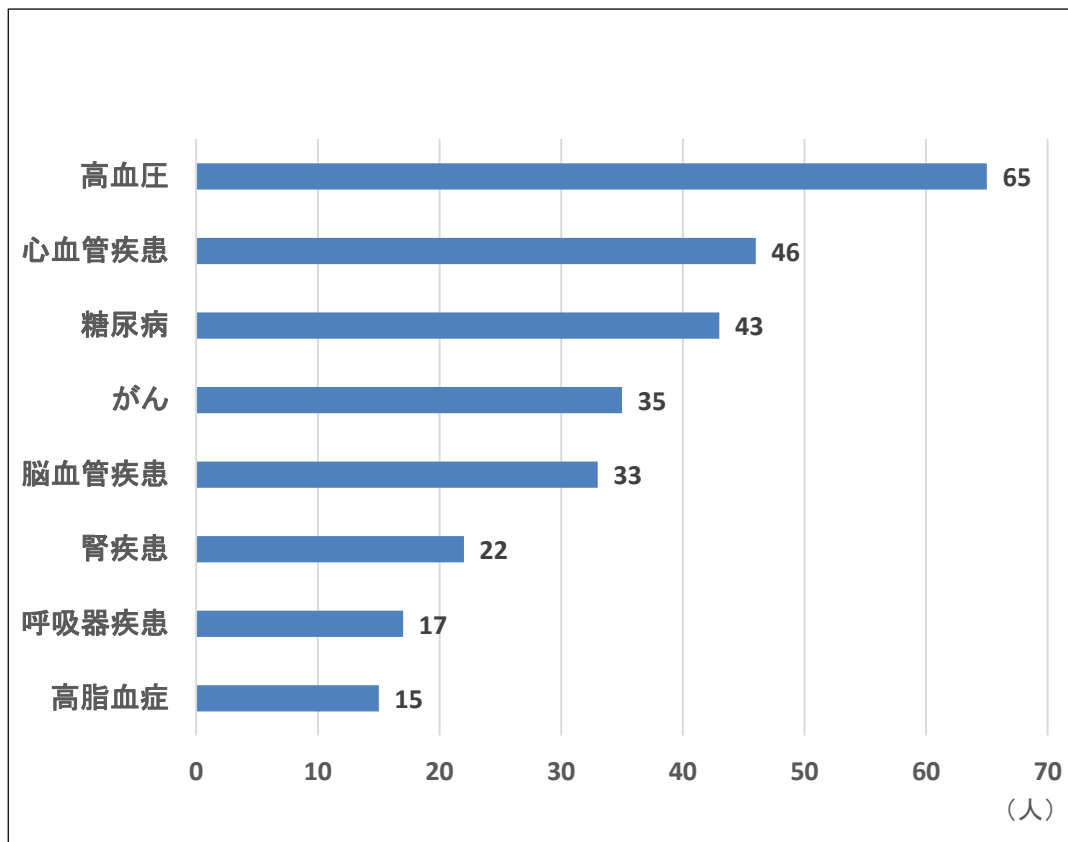
※和歌山県の第7波のデータはR4.6.21~8.19、第6波はR4.1.4~6.20
 全国の第6波はR4年1月~2月に診断された陽性者
 全国のデータは第90回(R4.7.13)新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード事務局提出資料
 「新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの重症化等について」より

死亡（間接死因含む）の状況

令和4年8月19日時点

- 死亡者の主な基礎疾患は、高血圧、心血管系疾患、糖尿病、がん、脳血管疾患、腎疾患が多かった。高齢者が多いことから、認知症の患者が多かった。

主な基礎疾患（重複あり）



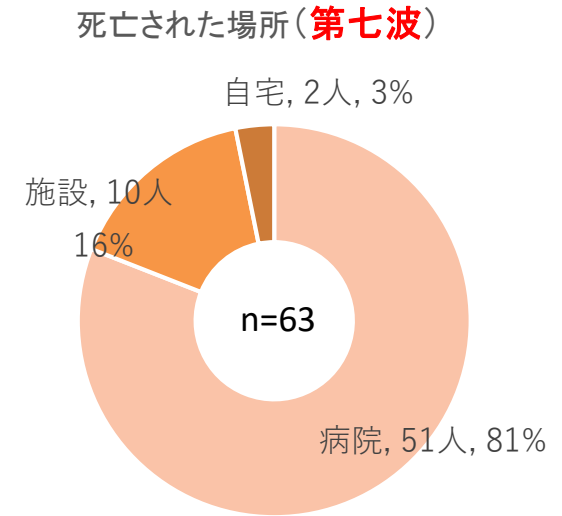
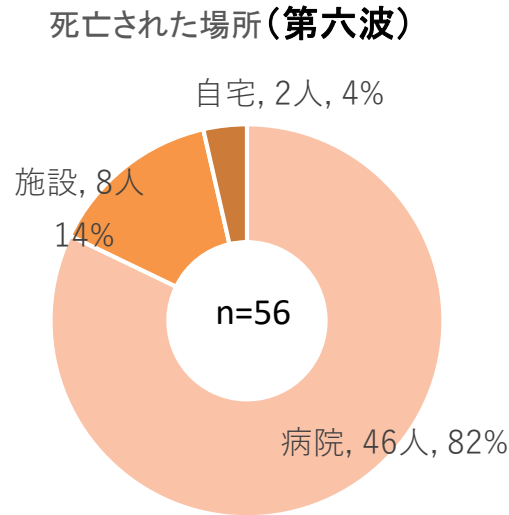
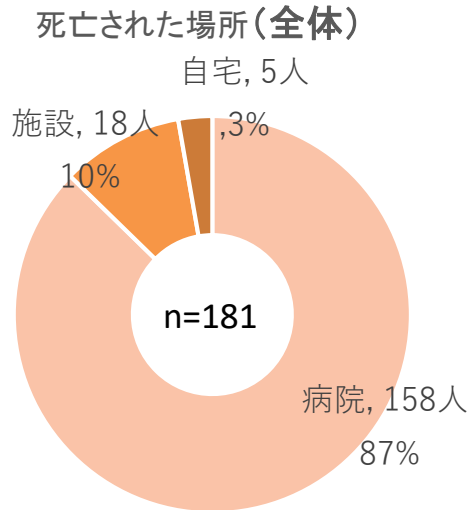
	基礎疾患のない者
第一波	2名
第二波	1名
第三波	0名
第四波	0名
第五波	0名
第六波	2名
第七波	1名

死亡（間接死因含む）の状況

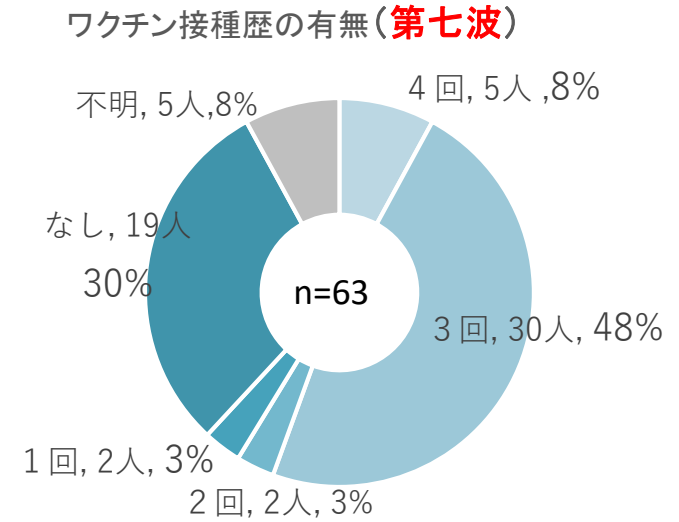
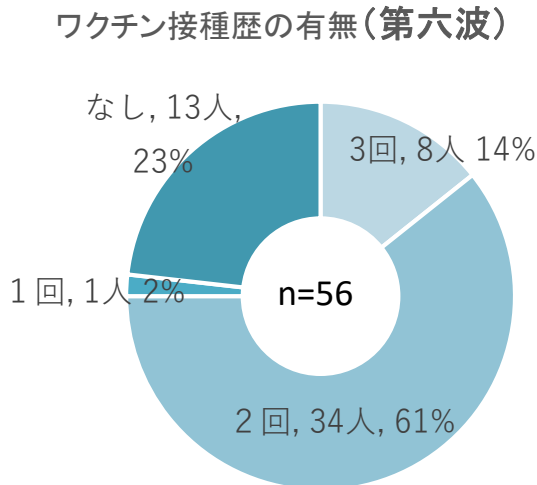
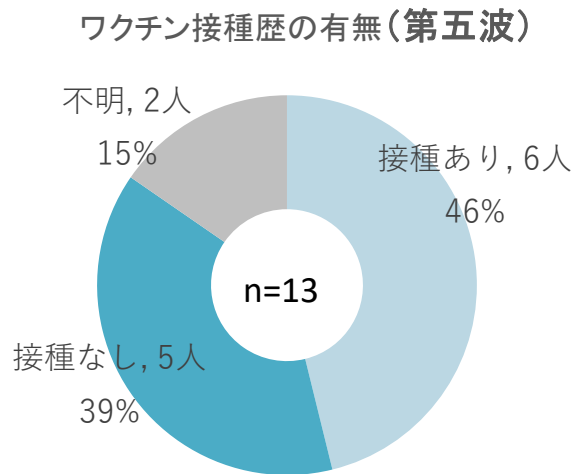
令和4年8月19日時点

- これまでの死亡者181名のうちの死亡された場所は、病院が最も多く、次いで施設、自宅が5名とわずかにあった。
- 第六波、第七波では、高齢者施設で多くのクラスターが発生したことも影響して、施設内での死亡者が第六波で8名、第七波で10名あった。また、自宅で高齢者が家族に見守られながら亡くなられた方もいた。
- ワクチン接種について、高齢者の3回接種が進んだ第七波では、第六波と比較すると、ワクチン接種3回以上の者が多く、4回接種者は5名あった。また、第七波では第六波と比較すると、未接種者が多くなった。

■ 死亡場所



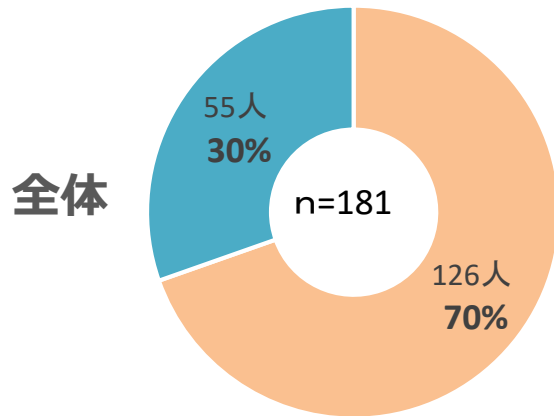
■ ワクチン接種



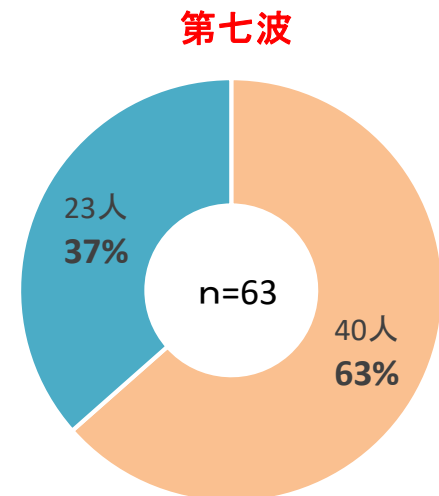
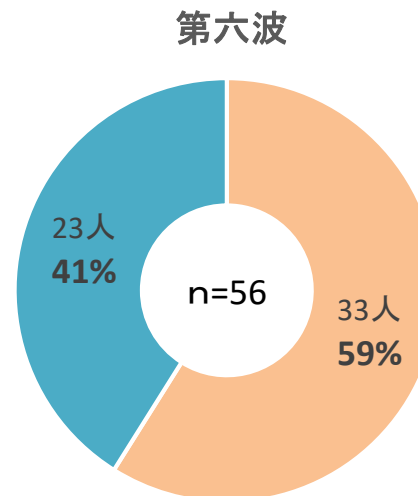
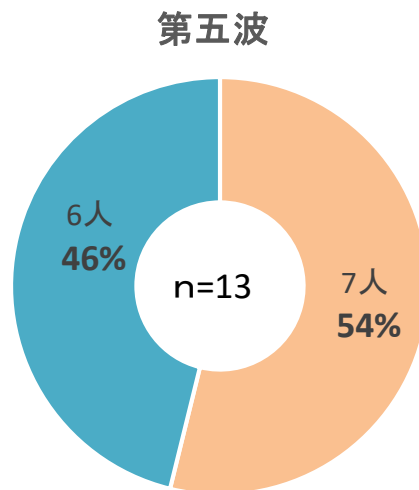
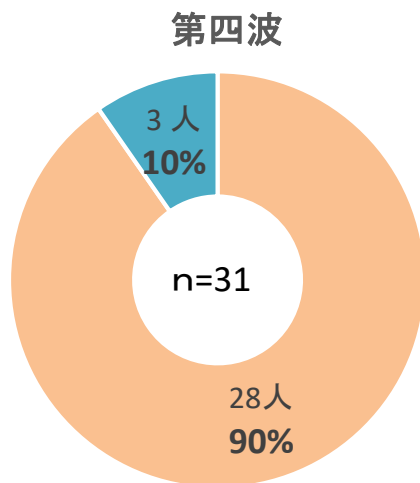
COVID-19死亡者の死因内訳

R4.8.19時点

- 死因について、主たる死因が新型コロナウイルス感染が原因によると思われるもの（直接死因）とそれ以外（間接死因）について見ると、ワクチン接種がまだない第四波では、直接死因がほとんどであったが、第五波と第六波では、ワクチン接種が進んだ影響と思われるが、直接死因は減少した。
- 第六波では、オミクロン株の流行により、ワクチン2回接種者高齢者に感染し、基礎疾患の悪化、併発疾患による死亡例が増加した。
- 第七波では、直接死因の割合が増加した。若い年代の死亡があったこととワクチン未接種者が多かったことが原因と考えられる。



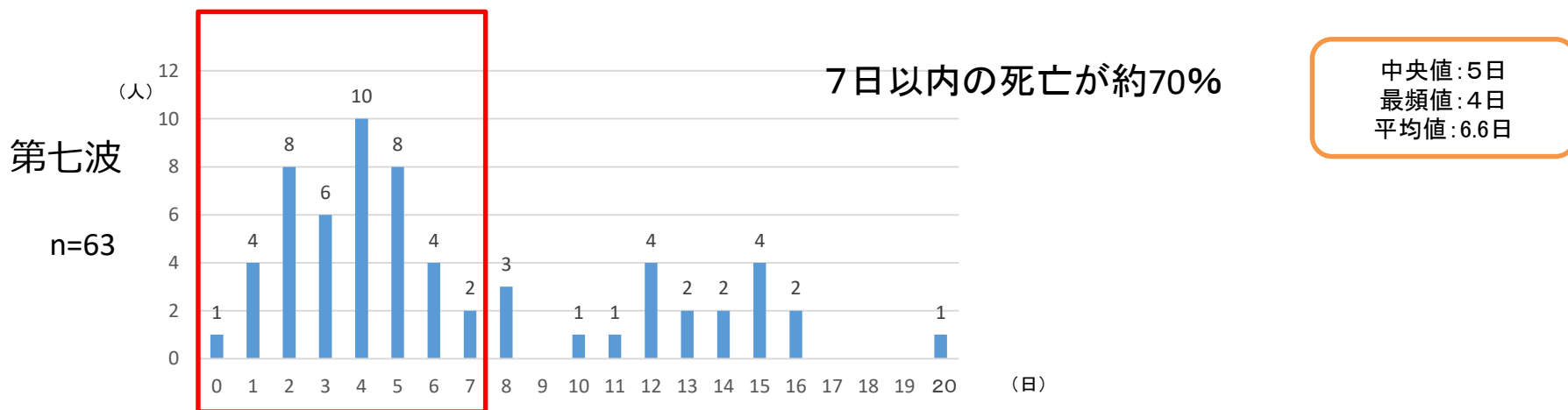
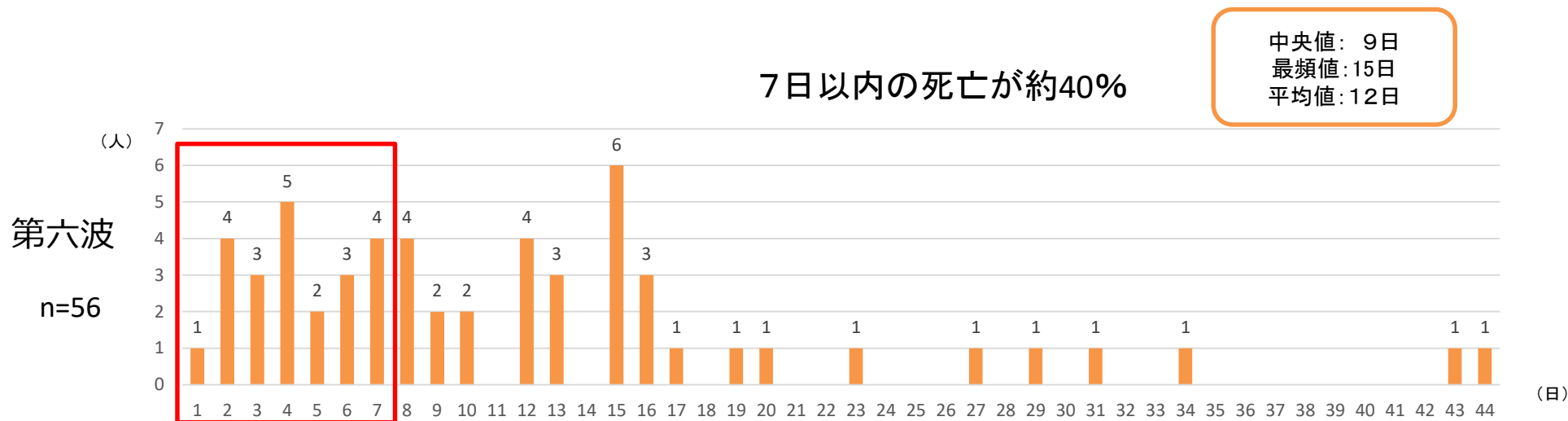
- 直接死因がCOVID-19であると判断できる
- 主たる死因がCOVID-19以外の疾患であると判断できる



発症（陽性判明）から死亡するまでの日数

令和4年8月19日時点

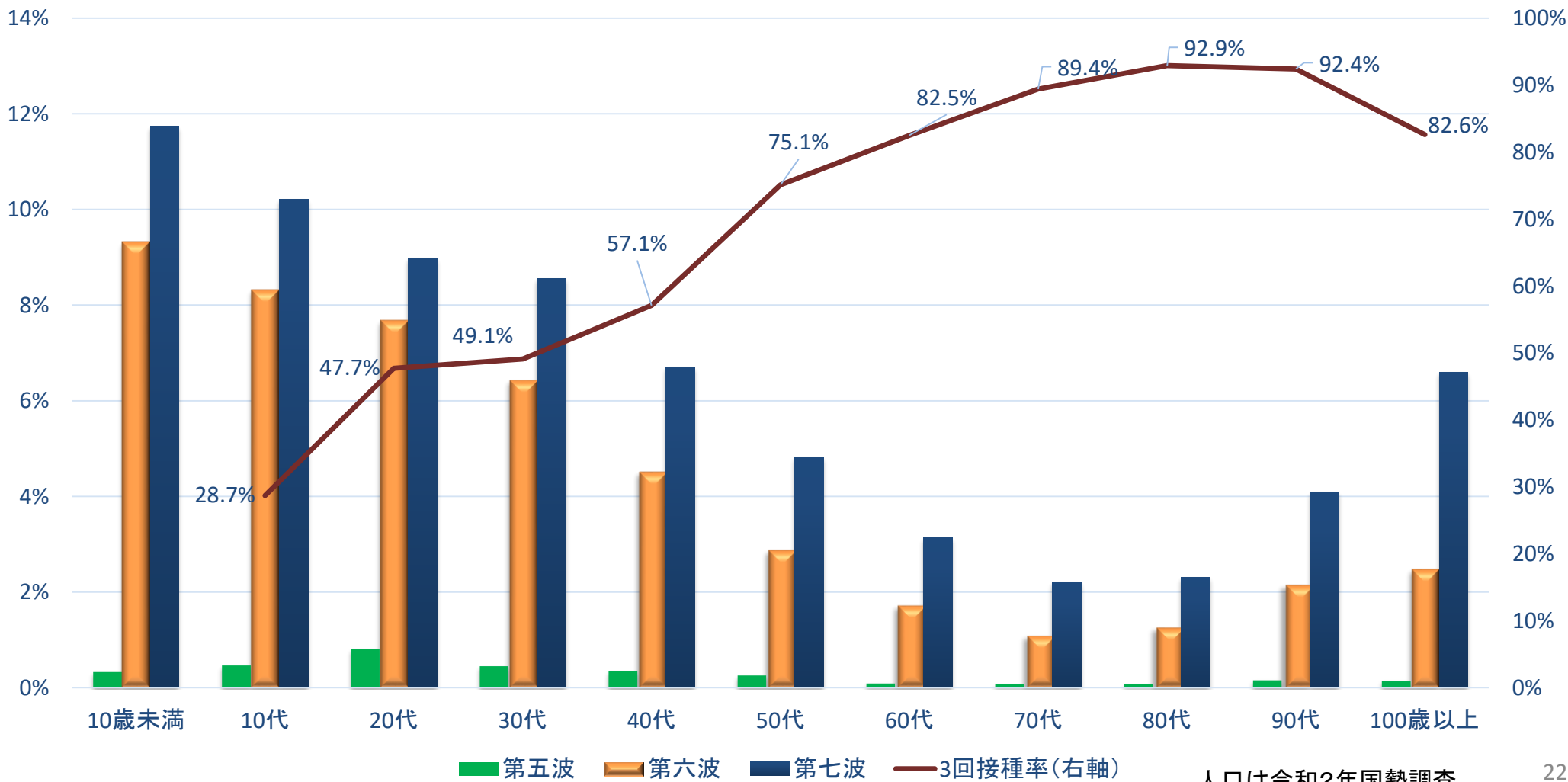
- 第六波の死亡者は、発症（無症状者は陽性判明時）から7日以内の死亡は約40%であった。
- 第七波では、約70%と高くなった。感染後急速に悪化し、死亡された事例が多かった。



ワクチン接種と感染

県内の年齢別人口に対する感染者数とワクチン3回接種率 (令和4年8月20日発表分まで) (接種率は8月14日現在)

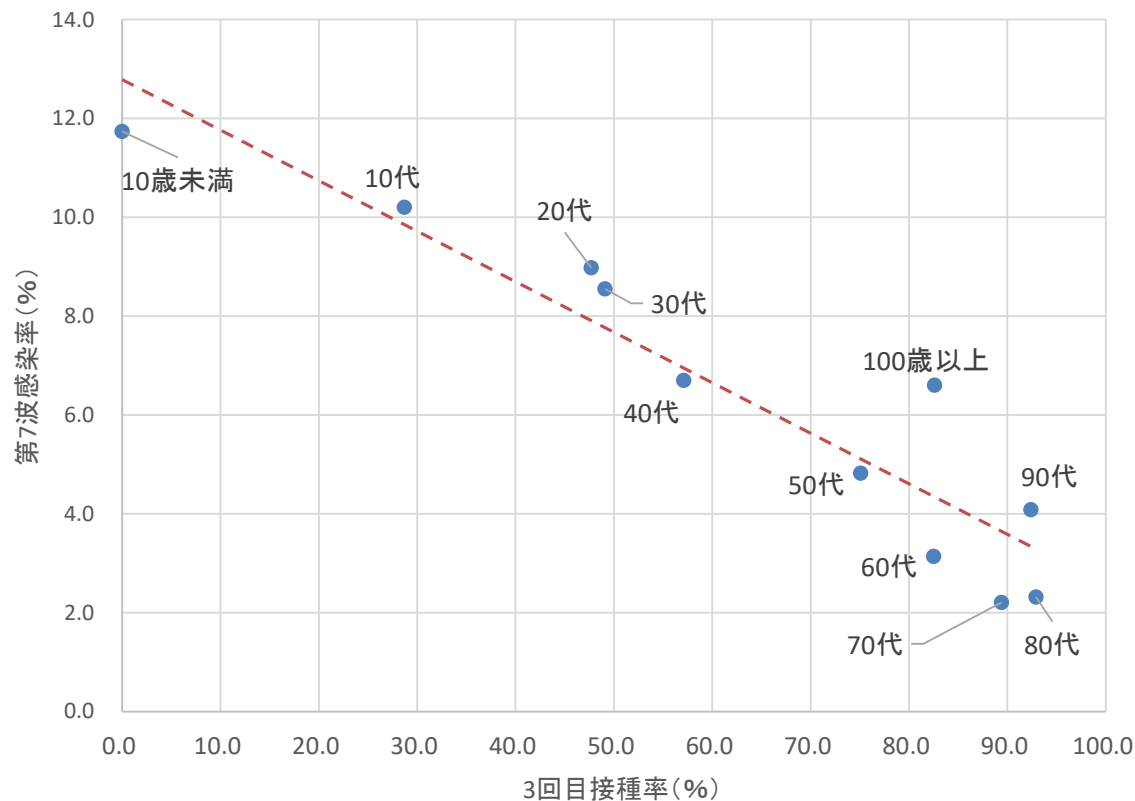
- 第五波～第七波における各年代別感染率（令和2年の国勢調査の年代別人口に対する各年代感染者数）と直近のワクチン3回接種率をみた。
- 第七波では、全ての年代で第六波より感染率が増加した。特に、100歳以上の感染率は2倍以上に増加した。
- 第六波、第七波では、ワクチン3回接種率が高い年代では、感染率は低い傾向にある。



県内の年齢別人口に対する感染者数とワクチン3回接種率

- 第七波における各年代別感染率（令和2年の国勢調査の年代別人口に対する各年代感染者数）と直近のワクチン3回接種率の相関をみた。
- 年代別ワクチン3回接種率と年代別感染率は負の相関関係にあり、ワクチン3回接種率が高い年代の感染率は低くなっている。

第7波感染率とワクチン3回接種率の関係



	(8/14時点) 第3回接種率	(8/20時点) 第7波感染率
10歳未満	0.0	11.7
10代	28.7	10.2
20代	47.7	9.0
30代	49.1	8.6
40代	57.1	6.7
50代	75.1	4.8
60代	82.5	3.1
70代	89.4	2.2
80代	92.9	2.3
90代	92.4	4.1
100歳以上	82.6	6.6
平均	63.4	6.3
標準偏差	28.6	3.1
最大値	92.9	11.7
最小値	0.0	2.2
相関係数	-0.936	

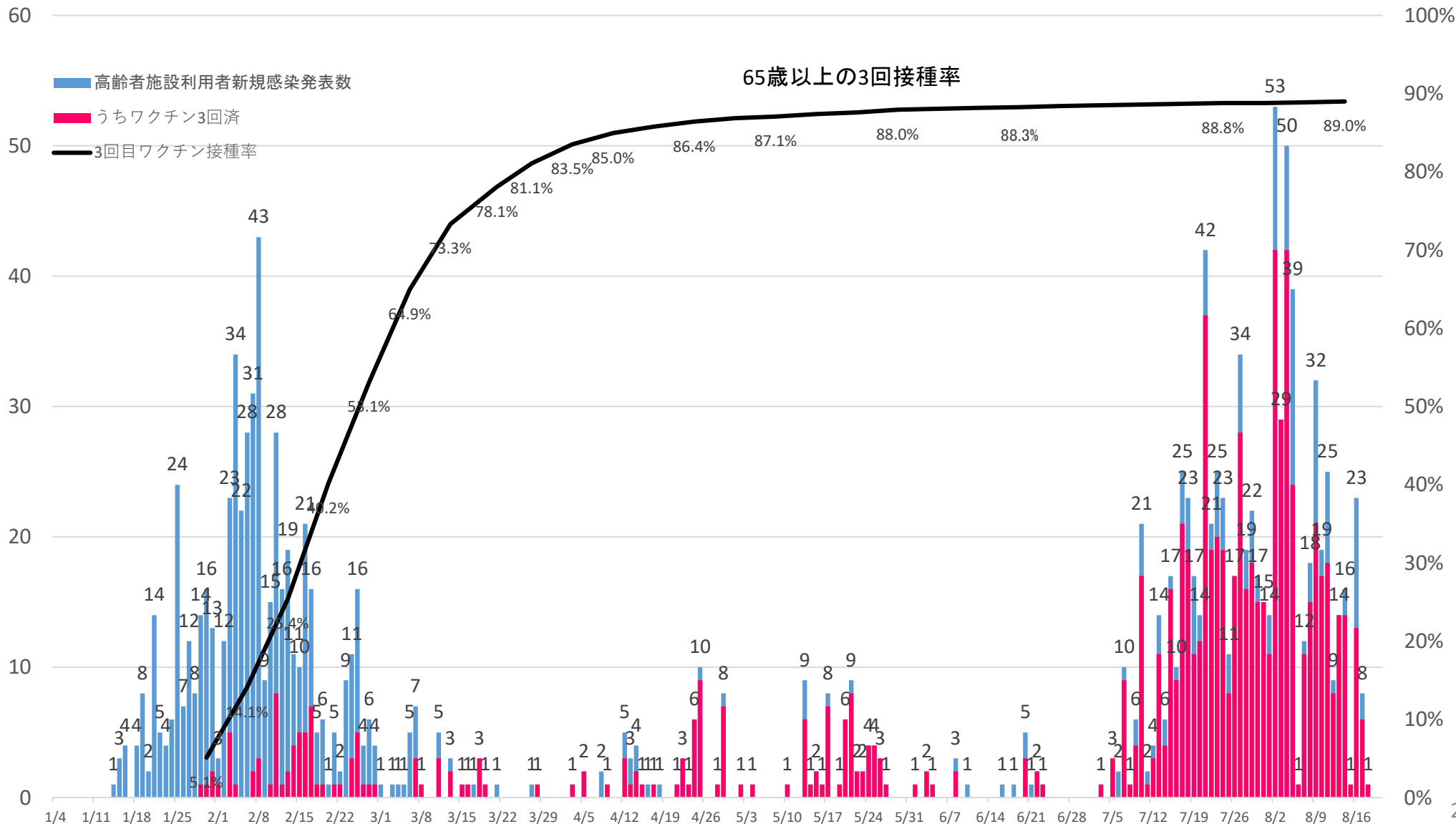
※人口は令和2年国勢調査

※令和4年8月20日発表分まで、接種率は同月14日現在

高齢者施設利用者の新規感染発表数の推移（第六波以降）

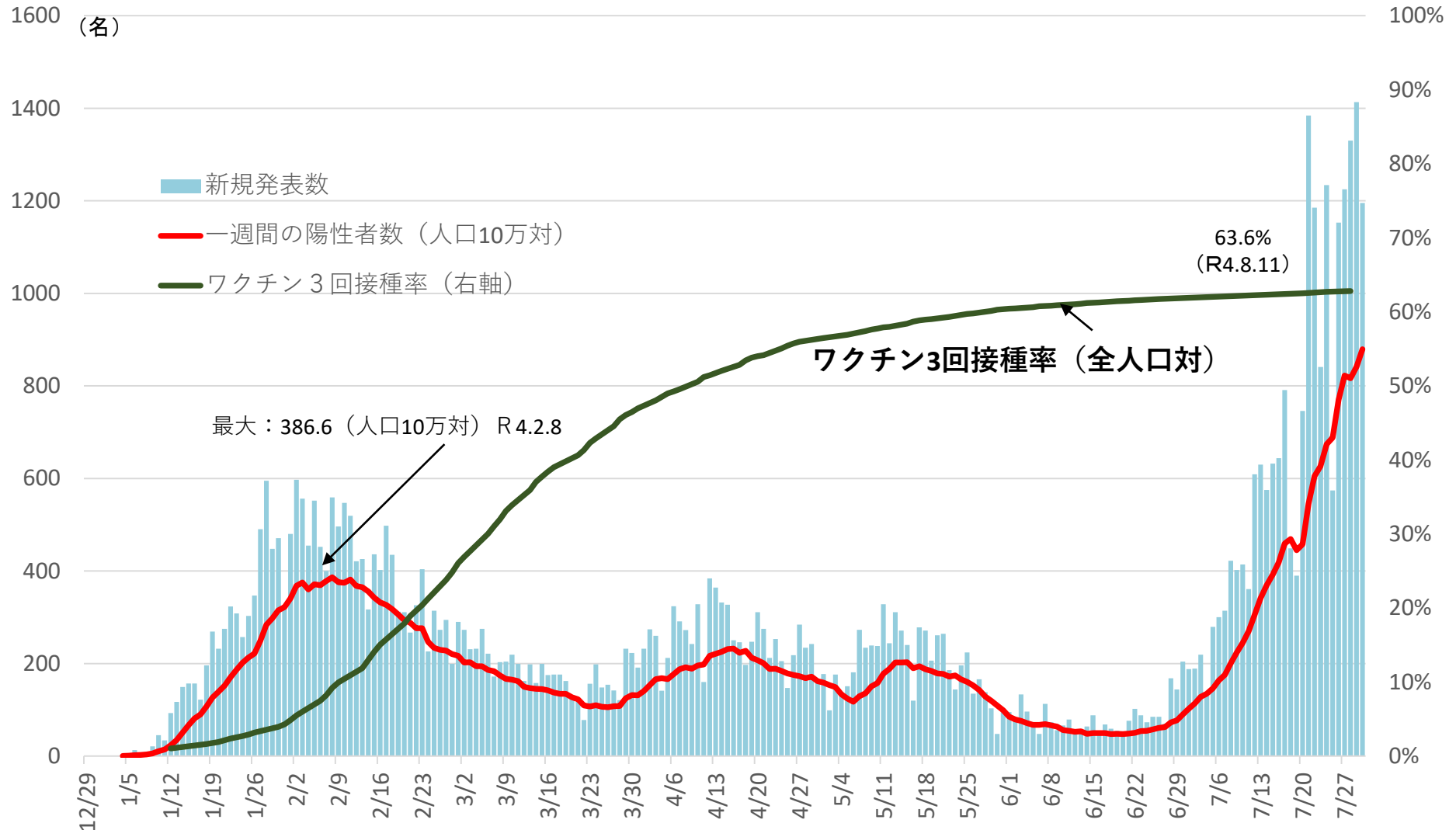
令和4年8月20日

○第六波以降クラスターとなった高齢者施設利用者の感染者数は、7か月で135施設、約1,500名となった。
 ○第六波では、ワクチン2回接種者の感染がほとんどであったが、第七波では、ほとんどワクチン3回接種者であった。



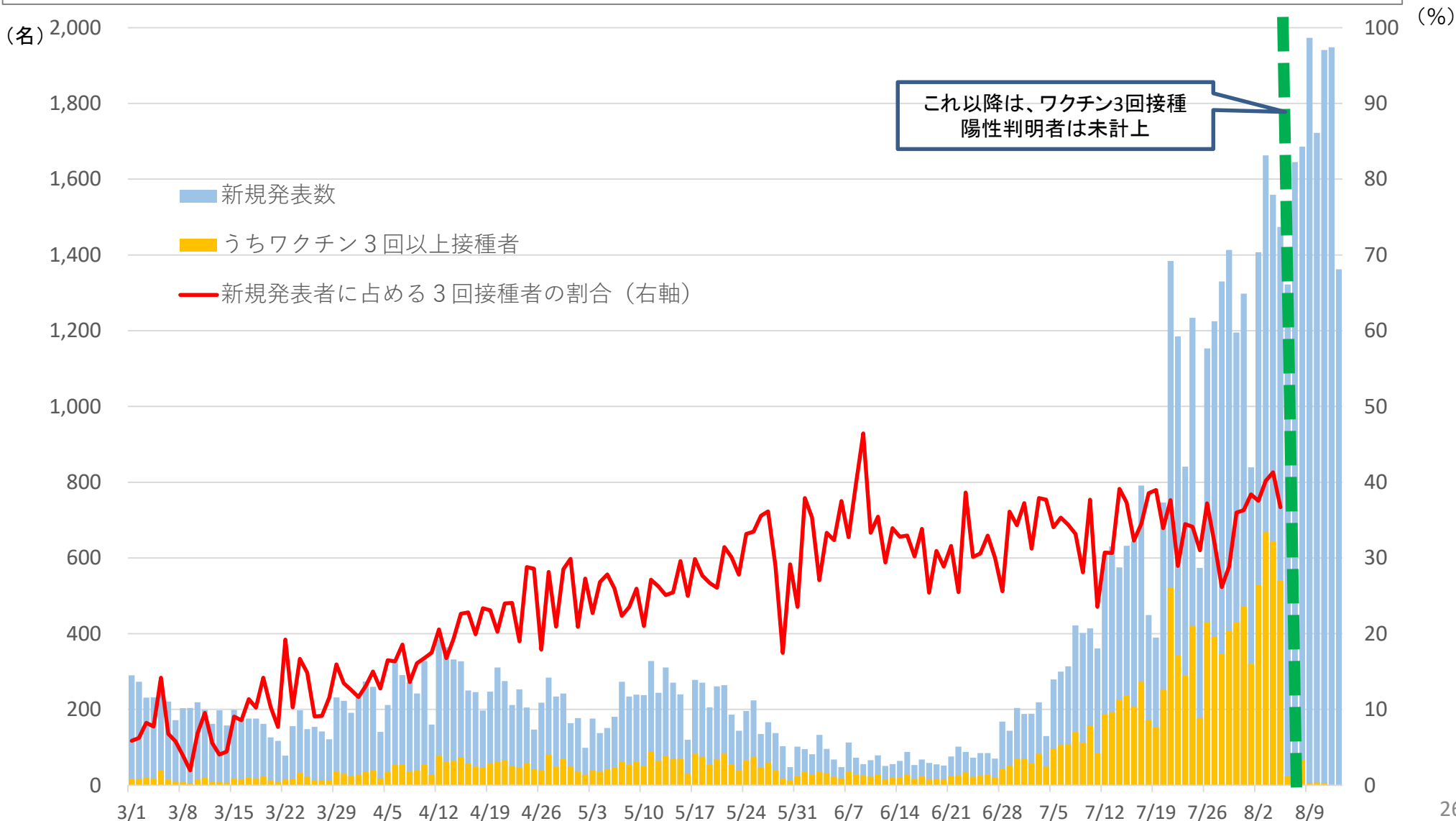
第六波以降の新規感染者数の推移とワクチン3回接種率

- ワクチン3回接種が進むにつれて第六波の感染者数は減少したが、接種率が伸び悩む中、第七波の感染爆発が起こった。
- これは、ワクチン3回接種の効果が減弱化したこととB A.5が免疫逃避をすることによると考えられる。



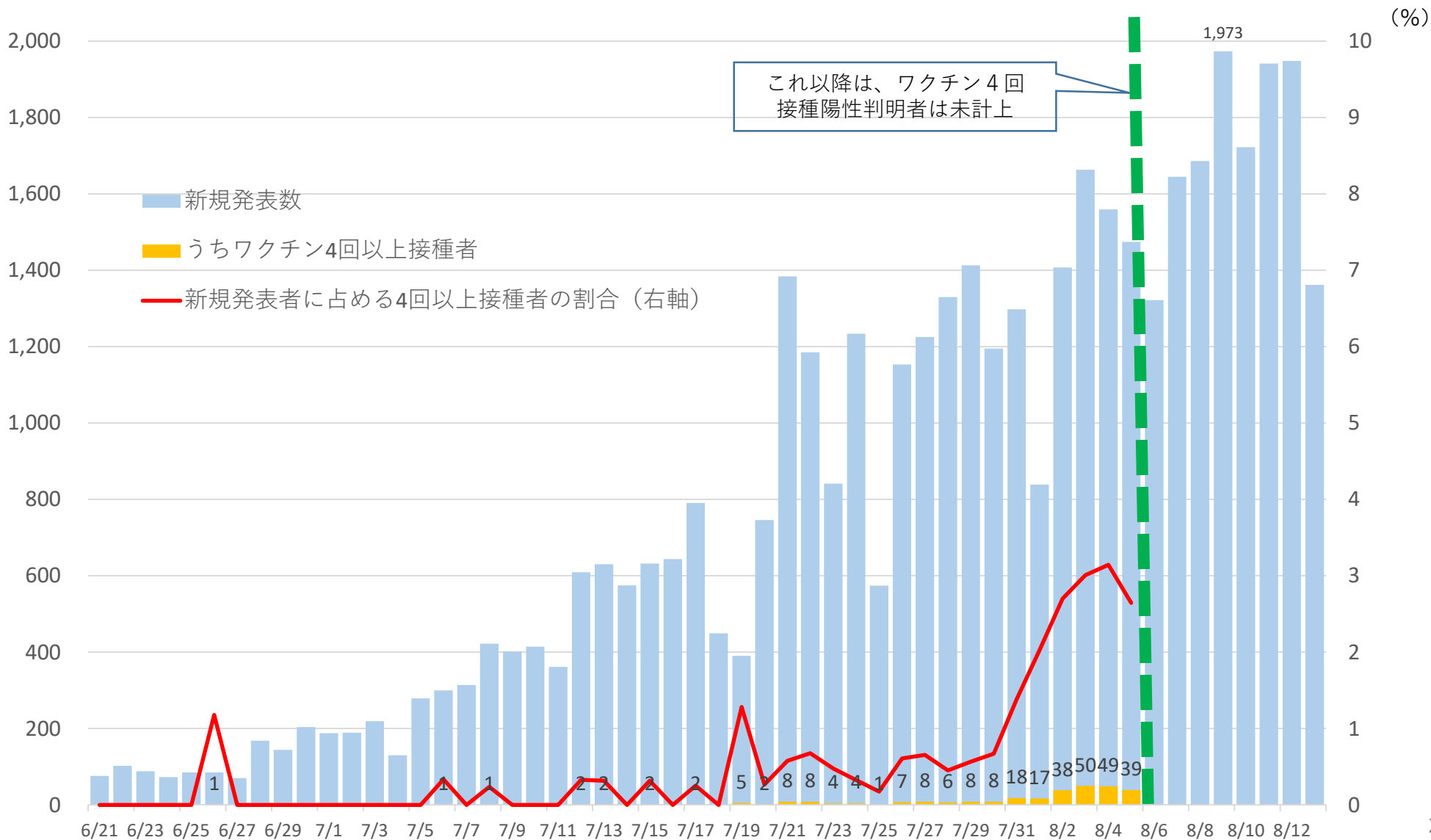
第六波以降の新規感染者数とワクチン3回以上接種者の割合の推移

○ 第六波では、ワクチン3回接種者の感染者の割合が増加していったが、感染が第六波以上に爆発した第七波では、ワクチン3回接種者の感染者の増加とともに未接種者等が感染したため、新規感染者に占める3回接種者の割合は30～40%で一定しているとみられる。



第七波の新規感染者数とワクチン4回以上接種者の割合の推移

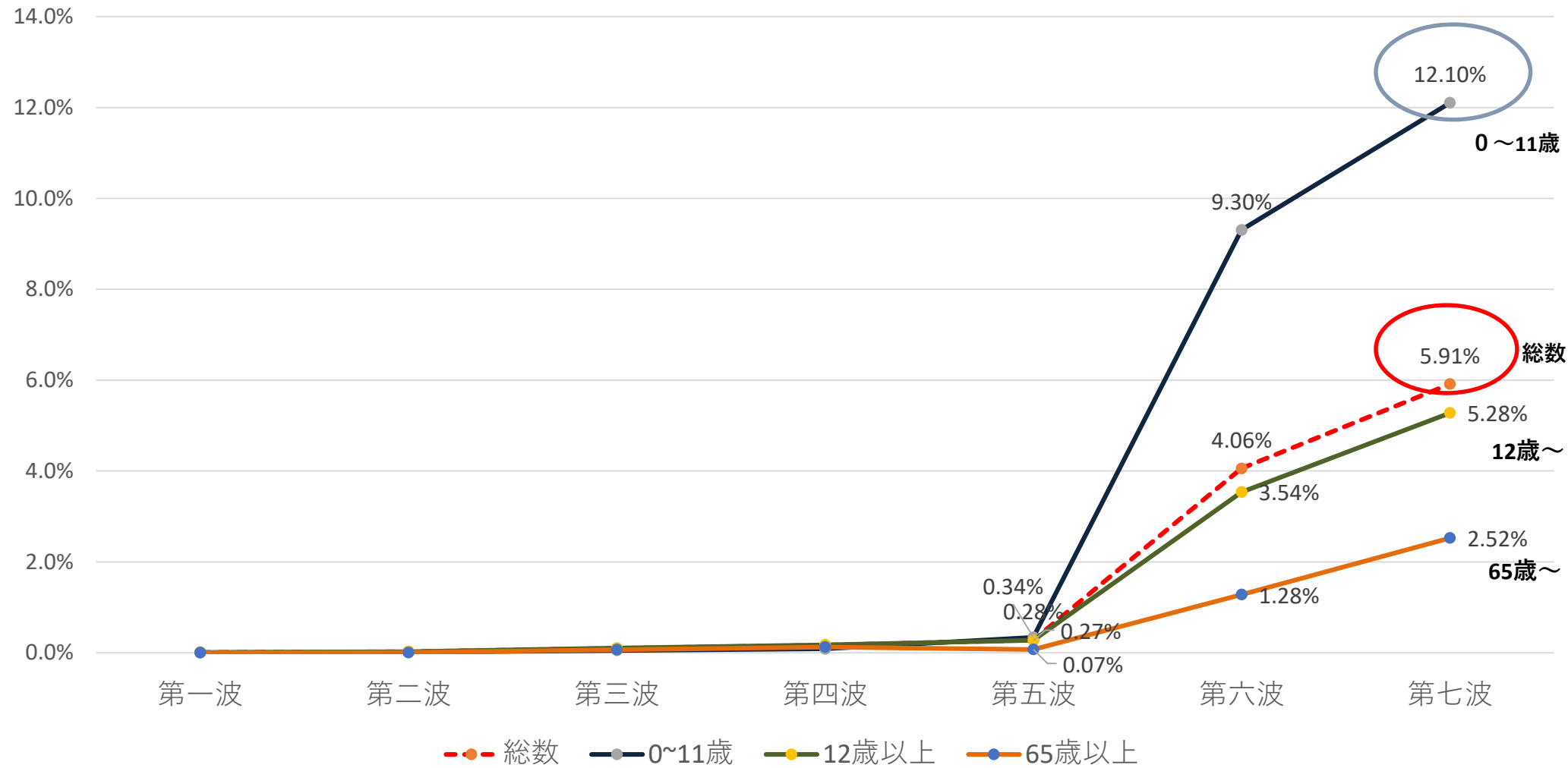
○ 第七波では、ワクチン4回接種者の感染が次第に増えてきている。



今後

和歌山県の推定罹患率の推移

R4年8月20日現在

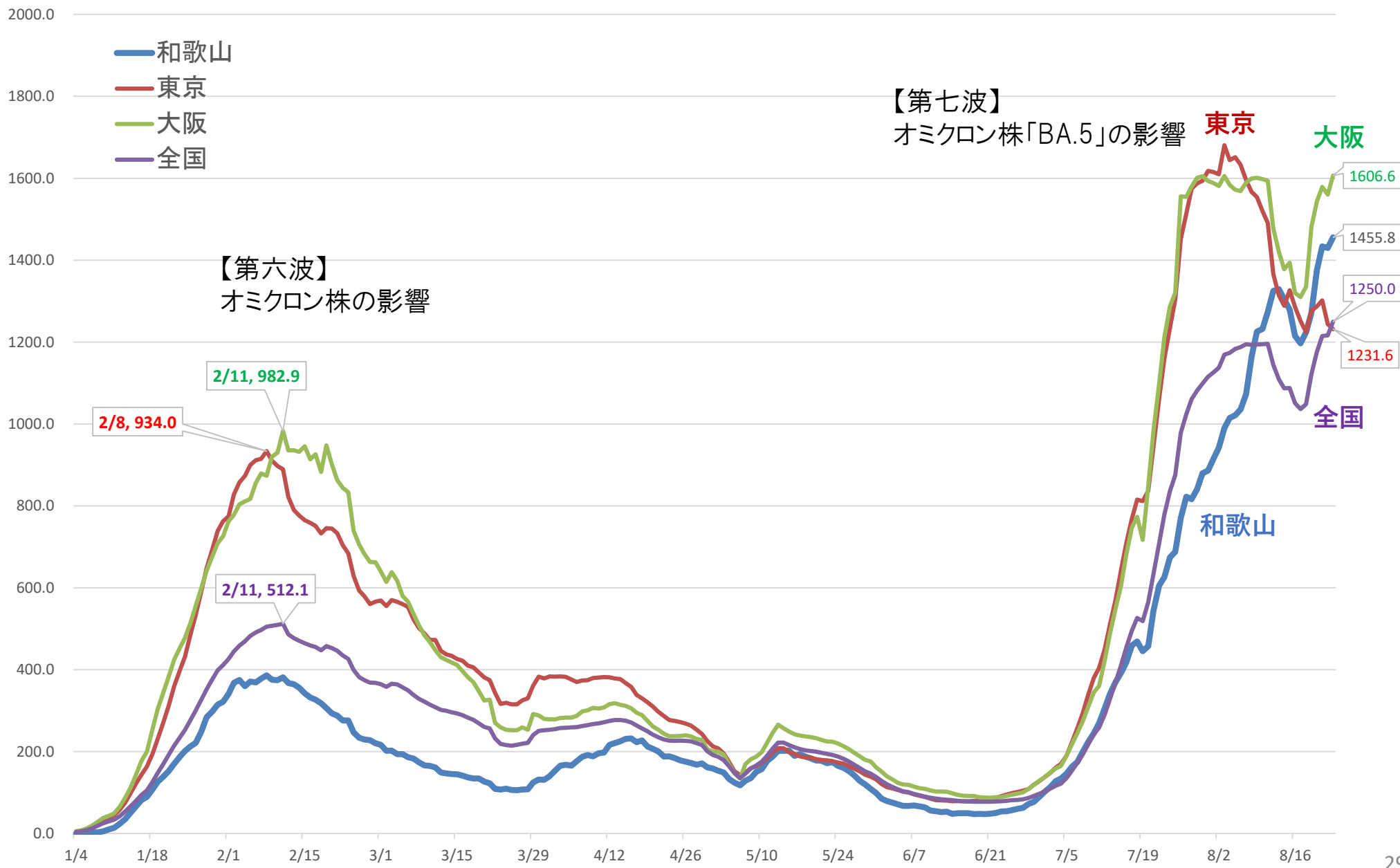


陽性者数 (罹患率)	人口(R3.1)	第一波		第二波		第三波		第四波		第五波		第六波		第七波		合計	累計
		R2.2.13~6.22		6.23~10.31		11.1~R3.3.13		3.14~7.10		7.11~R4.1.3		R4.1.4~6.20		R4.6.21~			
総数	944,432	64	0.01%	214	0.02%	912	0.10%	1,565	0.17%	2,637	0.28%	38,302	4.06%	55,863	5.91%	99,557	10.5%
0~11歳	82,754	1	0.00%	9	0.01%	41	0.05%	70	0.08%	280	0.34%	7,700	9.30%	10,016	12.10%	18,117	21.9%
12歳以上	861,678	63	0.01%	205	0.02%	871	0.10%	1,495	0.17%	2,357	0.27%	30,477	3.54%	45,480	5.28%	80,948	9.4%
うち65歳以上	309,961	12	0.00%	19	0.01%	208	0.07%	389	0.13%	226	0.07%	3,968	1.28%	7,826	2.52%	12,648	4.1%

※県外計上を含む

感染動向の推移（全国・東京・大阪・和歌山） 1週間・人口10万人当たり

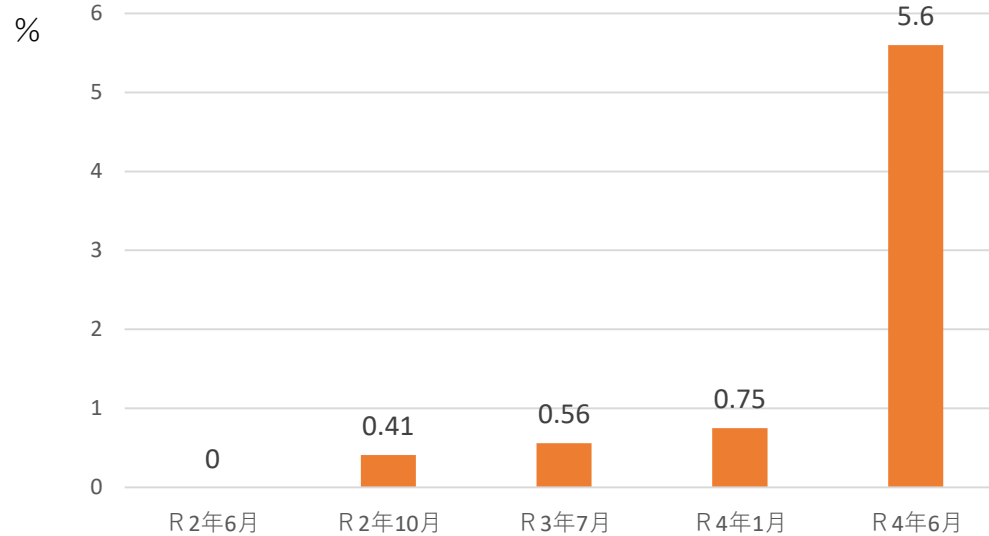
令和4年8月23日現在



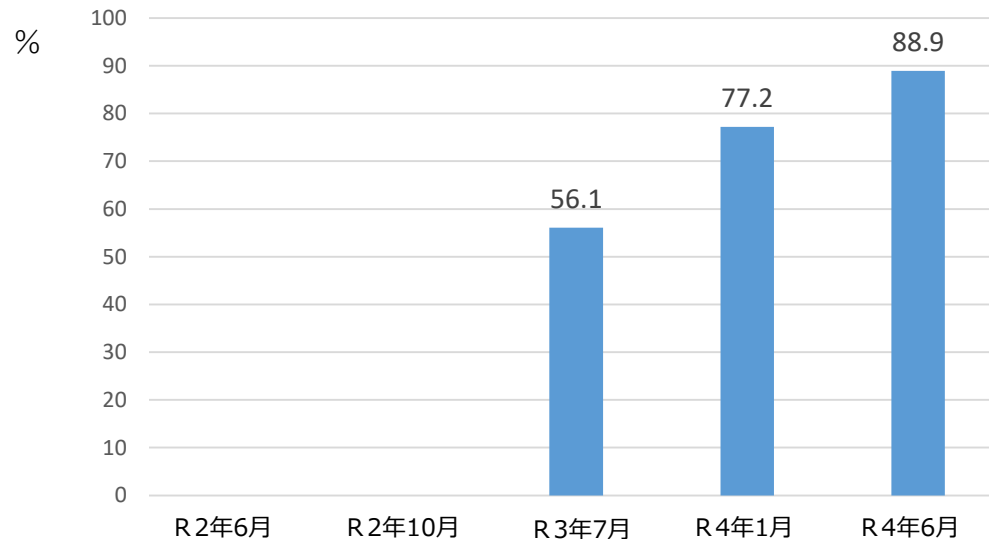
県内医療機関における新型コロナウイルスに対する抗体保有状況の推移

○ 県内医療機関の協力を得て、病院の外来受診者の抗体検査を実施してきた。今般、令和4年6月から7月上旬に行った検査では、自然感染によると思われるN抗体陽性者は5.6%、またワクチン接種によると思われるS抗体陽性者は88.9%であった。第七波の始まりの時点では、まだまだ既感染者は少ない状況である。

1. 自然感染によると思われる免疫獲得者の割合（推定）



2. ワクチンによると思われる免疫獲得者の割合（推定）



第七波の現時点のまとめ

- 第七波は、オミクロン株 B A . 5 の感染により、これまでにない爆発的な感染拡大が起こっている。
- ワクチン未接種者が多い小児が感染の中心になる一方、高齢者施設や病院でクラスターが多発し、基礎疾患のある高齢者の感染者も増加した。
- 高齢者の感染が増加するとともに入院患者も増加し、医療ひっ迫が起こっている。院内感染や医療従事者が濃厚接触者となり、これがさらに医療ひっ迫を助長している。
- B A . 5 は、一般的には、軽症で経過することが多いものの、基礎疾患のある高齢者では、肺炎の併発や基礎疾患の悪化により、急速に重症化し、死亡者がこれまで以上に多くなった。また、小児では、感染者が増加するのに伴い、けいれん重積を起こす者や、初めて10歳未満の死亡者を経験した。
- 死亡者は、ほとんどが基礎疾患があったが、第六波に比較してワクチン未接種者が多かった。ただし、ワクチン3回接種の効果の減弱や B A . 5 がワクチンの免疫逃避をすることから、3回接種者や4回接種者もいた。
- 新型コロナウイルス感染症による致死率は、第七波では、0.12と低下してきているが、特に、第七波の60代以上では、まだ季節性インフルエンザの致死率より高くなっている。今後も、第七波で死亡者も増える可能性もあり、動向を注視する必要がある。
- ワクチンは完全に感染を防ぐことはできないが、ワクチン未接種者では、一層感染が広がっていることから、ワクチン接種対象者にはワクチン接種が推奨される。
- 今後、小児を中心に感染がさらに拡大することが考えられ、小児から家族感染等を起こして大人に感染が広がっていくことが推定される。また、感染爆発は新たな変異株の出現や流行を引き起こす可能性があり、引き続き基本的な感染予防策を行なうこととワクチン接種により感染拡大を食い止めることが重要である。
- 県民の皆様には引き続き感染拡大防止にご理解、ご協力をお願いします。また、感染予防対策および医療対策に昼夜を問わず対応されている保健医療関係者に感謝を申し上げるとともに引き続きご協力をお願いします。